「朝鮮学報」第135輯 別刷
平成2年4月 刊
(1990)

# 朝鮮語の名詞分類

## ——語彙論・文法論のために——

野 間 秀 樹

# 朝鮮語の名詞分類

## ——語彙論・文法論のために——

野　間　秀　樹

【要旨】 본 연구는 현대한국어 명사의 어휘적＝문법적 분류를 시도함으로써 어휘론의 構築과 문법론의 새로운 전개에 기여하는 데에 그 목적이 있다.

현대한국어의 명사는 주로 다음과 같은 두 가지 조건에 의해 class를 이루고 있다고 볼 수 있다.

1) 格語尾・接尾辭 등의 문법적인 요소들과는 어떻게 결합하는가

2) 어떤 名数詞(類別詞)를 택하는가

한국어의 명사분류는 다른 품사의 분류, 특히 용언의 분류와 더불어 구체적인 言語事實을 보다 더 체계적으로 파악하는 데 도움을 준다. 말하자면 한 단어가 다른 어떠한 단어와 함께 어떤 식으로 쓰임으로 해서 어떤 의미를 실현하게 되느냐 하는 그 機構를 해명할 수가 있다. 즉 단어가 바로 의미가 되는 그 메카니즘에 접근할 수가 있는 것이다.

1. 語彙体系考察の理論的基礎
2. 朝鮮語の名詞の class
3. 不完全名詞
4. 可算名詞
5. 不可算名詞
6. 名詞分類の意義

本稿は現代朝鮮語の名詞の語彙的＝文法的 (lexico-grammatical) な分類を試み，そのことによって併せて現代朝鮮語の語彙論を構築する方途を考え，また文法論を新たに展開する端緒を得んとするものである。

## 1　語彙体系考察の理論的基礎

### 1—1　語彙論の基礎は単語である

言語において語彙というものは何らかの体系をなして存在している——おおかたの言語学者たちはそう信じている。しかしながら語彙の目録が辞

書という形で比較的充実している言語においてさえ，いまだ語彙の全体像が体系として明らかにされたとは言いがたい。この理由としては，語彙があたかも茫漠たる海のごとくに広大で，かつ，たえず生まれては死にゆくものでもあって，その＜量＞という点においてはなはだ捉え難きものであるということが一つある。さらにまた，語彙なるものを考え始めるやいなや，＜意味＞という言語学上の難問について直接対峙せねばならぬということがいま一つの理由としてあげられよう。いずれにせよ，語彙に対する言語学者たちの関心の低さや熱意のなさは隠せない。音（おん）や文法に対する関心をよそに，語彙は Lexikon という暗箱のなかで音の順序に従ってほうりこまれたまま眠っているのである。

語彙論は，語彙における音を一つの手掛かりとしつつも，そうした音の秩序のほかに，いったいどのような秩序が存在しているのかをまず考察する。語彙の分類という作業が即ちこれである。そうした考察の基礎となるものは単語であって，形態素ではない。それ自体で意味となりうる最小の単位が単語だからである。(1)

## 1—2　単語は意味となる

さて，意味の問題を考える際に，確認すべきことが一つある。我々はしばしば＜単語は意味を持っている＞と考える。しかしこれは正しくない。実際には単語は音形それ自体ではなんらの意味をも持たぬものである。一定の音形を有する単語は，一定の言語的な＜場＞のうちで，聞き手が読み取って初めて意味として実現する。最も典型的には，書かれた言語のことを想定すればよい。書かれた文字はそれを読むもののうちでのみ意味となるのであって，書かれた文字はよしんば単語としての一定の音形の写しを有していたとしても意味を持っているわけではない。話される言語においてもことは同様である。[pada] という音形が朝鮮語話者たちの間でやりとりされたとすると，彼らにとってこの [pada] という音形は紛れもない単語であり，意味として実現しうる。しかし，そのやりとりに同席した日本語しか解さない者にとっては，この [pada] がたとえことばであることはわかったとしても，意味ではないのである。この場における [pada] は，

一方で意味となり，他方では意味とならなかった。しかし単語ではあったのである。このように，単語は，これを読み取る者のうちで初めて意味として自己を全うする。意味はどこまでも人間の意識的な営みのうちにのみ存在しうるのである。単語は意味を持たない。それは意味と＜なる＞のである。(2)

### 1—3　単語は言語的な場のうちにある

そうであるとするならば，さらに進んで，単語は一定の発話のうちにおいてのみ意味となるという事実に注目せねばならない。実際の言語的な＜場＞(3)を離れたところに意味は存在しないのであるから，標本として取り出された語彙の見本を対象に語彙の分類を行なうことはできない。辞書にあげられた見出語の分類をしても語彙の分類をしたことにはならないのである。単語を単語として扱うということは，唯一意味が存在するところの，言語的な場のうちにおいてのみ可能なのである。

つまり単語を分類しようとするなら，すべからく実際の発話の現場のただなかにある単語しか扱うことはできないわけであるが，このことこそ意味の問題を扱う言語研究の背負っている困難なのだと言ってよい。次善の策として，我々は文字であれ録音であれ，発話の前後の文脈を切り出してきて言語資料とする。テクスト全体のこともあれば一部の場合もあろう。しかし，どんなに短くなっても，当該の単語が他のどのような単語と共に用いられているか，あるいは用いられていないかということをぬきには，その単語の意味を最終的に決定することはできない。

例えば，日本語の動詞を分類するとしよう。我々は「ゆく」だの「くる」だのという動詞の見出語のみを辞書から取り出して論議することはできない。少なくとも「学校へゆく」・「うまくゆく」・「合点がゆく」……あるいは「友達がうちにくる」・「がっくりくる」……などの単語の連なりまでをも考慮することぬきには，「ゆく」や「くる」の意味について考えたことにはならないのである。またあるいは朝鮮語の오다という動詞を考えてもよい。この오다だけを取り出して，例えばアスペクト論的な観点からの動詞分類を検討しようとしてもそれは文字どおり，意味がないのである。こ

こでもまた，最低限，「친구가 오다」（友達が来る）・「비가 오다」（雨が降る）といった単語の連なりを考えて初めて，「친구가 오고 있다」（友達が来つつある）・「친구가 와 있다」（友達が来ている）・「비가 오고 있다」（雨が降っている）という形は用いられても「비가 와 있다」という形はいささか成立しにくいというような事実を把握することができるのである。こうしたことは，いわゆる多義語や同音異義語の場合だけでなく，程度の差はあっても，実はすべての単語においてあてはまる。単語が意味と＜なる＞ものであると考えるなら，多かれ少なかれ，単語はおおむね多義語なのである。

従って，本稿における名詞分類も，その作業の基本においては，すべての名詞が一定の文脈の中で扱われるべきことを前提とする。単語の一つ一つについてすべて用例を提示しながら論を進めることが必要なのである。しかしながらそのことが実際上極めて不便であるから，文脈を与えず単語のみを提示することが多いけれども，それはどこまでも方便にしか過ぎないということを何よりもまず第一に確認しておかねばならない。

### 1—4　言語の記述は確率＝蓋然性に帰する

ある単語のこれこれの用法が可能かどうかということは結局のところ確率に帰する。

「先生がおっしゃった」・「龍王様がおっしゃった」・「ありさんがおっしゃった」・「人形がおっしゃった」・「時計がおっしゃった」・「辞典が・文学が・正義が……」と考えてみる。つまりある単語がどのように用いられるかということは，どれだけ多くの発話においてその用法が出現するかという確率の問題なのである。この確率は話し手の立場からすればその文が可能かどうかという可能性の度合いとして，ある場合には規範として想定されるものである。だとすれば，＜これこれの名詞はこれこれの動詞と結びつかない＞とか，＜これは非文である[4]＞というような記述のしかたはしばしば乱暴なきめつけとなるのであって，極めて不正確であるばかりか，比喩や詩的な表現といった言語の創造的な営みの可能性をあらかじめ断つという過ちを犯すことにもなる。もとより，人形や時計が話すのは言語に

あっては極めてあたりまえの，言語ゆえに可能な，言語の本質にかかわるできごとなのである。これらを「詩」だの「比喩」だのという名において切り捨ててしまうならば，言語学は言語にとって本質的な領域を扱わないことになるだけでなく，残された領域，つまりいわゆる「言語学」にとって扱いやすい領域にある対象のみを見てそれが言語のすべてであるかのように見誤る可能性が生じてしまう。言うまでもなく対象の一部とは全部ではないし，対象の一部に適用できる理論が対象のすべてに適用できるとは限らない。むしろ初めから扱いやすい対象のみを操作するのであるから対象のすべてにとっては誤りである可能性が高いであろう。

例えば，少ない作例をもってその言語全体を云々するようなことは避けねばならない。対象の一部を対象のすべてのごとく扱う方法や，言語学者の想像力をはるかに逸脱したふるまいをしている実際の言語を，非文か非文でないかという二者択一でしか見れない考え方は捨てるべきなのである。一人の言語学者はある文が非文であるかどうかについて見解を提起することはできても，それが非文かどうかを決定することはできない。ある個人が非文であるとする文を他の個人が非文ではないとする可能性は常に存在する。言語はそうした自由の領域に属する。そしてそのことは言語にとってはむしろ本質的なことであろう。＜そう言ってしまえば言えてしまう＞という働きこそ言語にとっては本来的な働きなのであって，あるいは言語をつくりかえ，あるいはあまたの文学を産み出しえた言語本来の権利なのである。これは，非文が詩人に属し，非文でないものが言語集団に属しているということを意味しない。非文と非文でないものとの間をたえずゆらめきながら詩は生まれてきたのである。非文と非文でないもののいずれもが一個の人間に属し，かつ言語集団にも属していることを示しているのである。そうであるならば言語研究は，この非文と非文でないものの間のゆらめきをこそ，しっかりと見据えねばならない。

さて，こうして考えてゆくならば，単語の結合や共起の可能性はただただ確率＝蓋然性としてしか記述されえないと言ってよい。非文か非文でないか，プラスかマイナスか，あるいは１か０かという二者択一ではない記述の方法が言語事実をより正確に照らしだすのである。＋－という二者択

一では，記述が正確でないというばかりか，言語の本領を見失うことにもなりかねない。言語学に多大の貢献をしてきた＋－の二分法も根底から見直さねばなるまい。

本稿における名詞の分類もこうした考えに立つ。つまりある単語が＜これこれの範疇に属する＞ということは，＜その範疇に属する蓋然性が高い＞ということを示すのみであって，範疇の成員と非成員とを二者択一的に区別するものではないのである。(5)

### 1—5　一つの単語は意味によって分解せずに一つの単語全体として扱う

さて，語彙の問題を扱うについてはいま一つ次のことを確認しておかねばならない。いわゆる語彙論や意味論においては単語の意味をいくつかの＜意味素性＞なるものに分解して考えることがある。(6) 例えば，「父」という単語は「人」で「男」で「子を持つ」という素性が……云々のように。しかしここではそうした考え方をとらない。意味素性という考え方は一面で便利な点もあり，一定に有効ではあるけれども，どこまでも研究者の主観的な取り出し方にすぎないものであって，そうした＜意味素性＞の妥当性を他の研究者が検証しにくいという決定的な弱点を持っている。提示された意味素性を前にした「なるほどそうかも知れない」という消極的な了解と，多くの研究者が検証しうる積極的な妥当性とは違う。これこれの単語はいくつの素性からなるのかという問題一つをとっても，意味素性を基礎にする考え方は既に袋小路に入りこむのである。また単語による形式の支えがないところで意味の素性云々を論じるならば，言語を離れた言語外現実の分析が即ち言語の分析であると思い込む，そうした罠にも陥りやすい。

しかしながら単語を基礎にすれば状況は大きく異なってくる。単語には音形が存在するがゆえに他の研究者にとっても等しい対象として扱うことができる。＜この単語甲はこれこれの意味素性からなるので単語乙と共起する＞という具合に単語から目に見えない意味素性という要素を取り出して論ずるのではなく，＜単語甲は単語乙と極めて高い頻度で共起する＞というように，誰の目にも比較的明らかな単語の音形全体をそっくりそのま

ま要素として扱うのであるから他の研究者の追試が可能なのである。テクストさえ限れば共起する頻度などから始まって単語をめぐる様々な性質を計量化することさえできるであろう。またそのことと同時に，単語から離れた言語外現実の分析に終始するという危険も避けやすくなる。

こうして我々は語彙論の基礎はやはり単語にあるという王道に立ち返るのである。ただし先に述べたように，＜単語は意味を持っている＞という幻想を絶ち切り，＜単語は意味となる＞と考えるところから出発する点で，本稿の志向する語彙論はこれまでの伝統的な語彙論と決定的に異なるのである。

## 2　朝鮮語の名詞の class

### 2—1　名詞とは何か

まず，名詞とは何かという問いについてはさしあたり「対象を名付ける単語」と簡単に規定しておくのが便利であろう。[7] 更に言えば，名詞は，構文論的には主語・対象語になり，連語論的には連体的な形式の被修飾語となり，動詞・形容詞および他の名詞をかざり，形態論的には体言語尾，様態語尾（とりたて語尾，いわゆる副助詞にあたるもの），および指定詞-이다をとりうる単語である。[8] 後に触れるように，他の品詞との境界的な位置にある名詞を紐帯として，名詞は他の品詞に段階的に連なって存在しており，そうした他の品詞と名詞がどのように連なって存在しているかということを具体的に描き出すことが即ち名詞を厳密に画定することなのである。

### 2—2　朝鮮語の名詞の class

朝鮮語の名詞は主として次の二つの指標によって class を成していると考えることができる。

1）　格語尾・接尾辞など文法的な諸要素のつきかた

2）　名数詞（類別詞）のつきかた

もっぱら形式に着目した上の二つの指標に加えて，分類にはさらに語彙的な意味をも考慮する。つまりこの分類は**語彙的＝文法的分類**なのである。論に先立って分類の全体像をまず次頁に示すことにする。[9]

分類の基準などは以下に詳説する。ただ，重要なことは，この分類は，ある基準に照らして＋－のテストを行う二分法によって分類したものではないということである。上に述べたような指標，および造語や語彙的な意味などもろもろの観点を総合すると，同じような性質を持った単語は集まっておのずから群をなす。そうした単語群が形成するところの分類なのである。この意味では極めて**<ゆるい>分類**である。こうした<ゆるい>分類を採択するのは，範疇に対する，前章で述べたような考え方によるものであることは言うまでもない。＋－で切ってゆく<きつい>分類は決して言語事実を照らしだしてはくれないのである。

なお，-꾼や-질など，名詞分類に大きく関連する造語接尾辞にも言及するけれども，가을비（秋雨）や이슬비（霧雨）における비（雨）など，合成名

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 完全名詞 | 動物名詞 | 4-1 | ANI | 개，새 | 活動体名詞 | 可算名詞 |
| | 人間名詞 | 4-2 | HOM | 사람，학자 | | |
| | …団体名詞… | 4-3… | ASO… | 회사，당 | | |
| | 場所名詞 | 4-4 | LOK | 곳，장소，도시 | 不活動体名詞 | |
| | 具体名詞 | 4-5 | KON | 집，나무 | | |
| | 事柄名詞 | 4-6 | AFR | 생각，사실，언어 | | |
| | 位置名詞 | 5-1 | POZ | 위，앞，뒤 | | 不可算名詞 |
| | 時間名詞 | 5-2 | TEM | 오늘，봄 | | |
| | 数量名詞 | 5-3 | NOM | 삼인분，천원 | | |
| | 物質名詞 | 5-4 | MAT | 물，가스 | | |
| | 抽象名詞 | 5-5 | ABS | 도덕，각도 | | |
| | 性質名詞 | 5-6 | KVA | 필요，안전 | | |
| | 活動名詞 | 5-7 | AKT | 조심，인쇄 | | |
| | 営為名詞 | 5-8 | AGO | 구경，인사 | | |
| | 形容名詞 | 5-10 | | 객관적，미적 | | |
| 不完全名詞 | 第一群 | 3-2 | | 분，나름，따위 | | |
| | 第二群 | 3-2 | | 것，나위，리 | | |
| | 名数詞 | 3-2 | | 개，잔，번，월 | | |

＊数字は本稿で扱う章-節の番号を示す。

詞をつくる生産的な造語成分としての名詞については原則として触れない。

以上の分類は，一つの名詞が二つ以上の項にまたがることを妨げるものではない。例えば，회사（会社）は団体名詞でもありうるし，場所名詞でもありうるなど。

また，本稿に例として提示した名詞はすべて現在の韓国において用いられている名詞のみに限ってある。従って辞書には記載されているにもかかわらずほとんど実際には用いられることのないような名詞は一切あげていない。そうした意味でも単なる語彙目録の分類ではなく，**同時代に広く使われている生きた名詞の分類**をめざすものである。

## 3　不完全名詞

### 3—1　不完全名詞を完全名詞から分かつもの

「할 줄 알다」の줄，「할 리가 없다」の리などは，文法的には名詞と言ってよいけれども，自立語として単独で用いられることがなく，常に修飾語の後ろでのみ用いられるという機能上の著しい制約がある。こうした一群の名詞は**不完全名詞**（あるいは形式名詞）としてここでは一括して扱い，4章で扱う他の**完全名詞**とは区別する。

不完全名詞は語彙的な意味というよりもむしろ文法的な機能の方に重点があるものが多い。また，そのほとんどは不可算名詞であるが，분（かた）・것（もの）のように，わずかながら可算名詞と考えられるものも存在する。

### 3—2　不完全名詞の三つの群

不完全名詞もまたいくつかの下位集団に分類することが可能である。まず数詞のあとにのみ来うる**名数詞**があり，また이（この）・그（その）・저（あの）という冠形詞のあとにも来うる**第一群**と，それら冠形詞のあとには来ない**第二群**がある。

名数詞の数は多い：

개（個）・대（台）・번（番）・월（月）など。

名数詞については後に4—5など，随所で触れることにする。

冠形詞이・그・저のあとにも来うる**第一群不完全名詞**はより完全名詞に近い群である：

김（ついで）・나름（次第）・대로（通り）・따위（類）・만큼（ほど）・무렵（頃）・바람（拍子）・분（かた）・뿐（のみ）・중（中）・지경（有様）・쪽（方）など。

この第一群は이런（こんな）・그런（そんな）・저런（あんな）のあとでも用いられるものが多く，指定詞-이다がつくこともしばしばある。なお，一般に저のあとに来うる名詞は必ず이・그のあとにも来うるようである。この第一群と次の第二群とは바람（拍子）や따름（のみ）のようにユしかとれないものによって連なっている。

**第二群不完全名詞**は冠形詞이・그・저のあとに来ないものである：

간（間）・것（もの）・나위（必要）・남짓（余り）・녘（頃）・데（ところ）・둥（よう）・듯（よう）・등（等）・딴（なり）・리（はず）・만（ぶり）・망정（幸い）・바（ところ）・뻘（間柄）・양（よう）・적（時）・제（時）・줄（こと）・지（以来）・참（ところ）・채（まま）・척（振り）・체（振り）・초（初め）・터（つもり）・턱（わけ）・품（様子）など。

なお이것（これ）などは一単語の代名詞と見る。그간（その間）も一単語の副詞。만（ぶり）と남짓（余り）はほとんどが数詞・名数詞のあとでのみ用いられるので名数詞と考えてもよい。오래간만（久しぶり）・오랜만（久しぶり）は完全名詞。만・남짓・초以外はすべて直前に用言の連体形もとりうる。

この第二群は独立性が非常に弱く，리・줄・지のように指定詞がつくことができないものもある。「할 줄 알다」の줄がそうであるように，他の一定の単語や連体形の語尾などと極めて高い確率で共に現われ，文法的な形の構成要素となるものが多い。

なお，語頭が母音あるいはㅎである完全名詞は非常に多いにもかかわらず，第一群・第二群とも，語頭が母音あるいはㅎである不完全名詞はほとんどない。ㅋ・ㅍのものもほとんどない。

名数詞を除く，純然たる不完全名詞は語彙数が少ないけれども，「하는 셈이다」（する勘定だ）の셈，「할 수 있다」（することができる）の수，「할 작정이다」（するつもりだ）の작정のように完全名詞が不完全名詞的に用いられるものはしばしばあり，それらまで含めるとかなりの数に上る。서방（旦那）も「김 서방」（金さん）などという場合には不完全名詞といってよいし，참（站・ところ）などは元来完全名詞であったと考えられる。このように完全名詞と不完全名詞の境界もまた，二者択一的な集合論で割りきれるようなものではないのである。不完全名詞については体言語尾や指定詞のつきかたなどを見ることによって更なる下位分類や，異なった分類をすることも可能であろう。不完全名詞の検討と分類はそれだけで相応の紙幅を要す。詳細については独自にとりたてて稿を改めることとし，ここでは本稿の中核をなす完全名詞に論を移すことにする。

## 4　可算名詞

### 4—0　可算名詞

完全名詞の検討に入る。複数を示す接尾辞-들[10]がつきうる名詞は，名数詞を用いたり，하나，둘……という数詞を用いるなどして数えることができる名詞[11]にほぼ相当する。これを**可算名詞**と呼ぶ。以下，完全名詞のうち可算名詞をこの第4章で論じ，残る不可算名詞を第5章で論ずることにする。

<여러 …들>という枠組みに無理なくおさまる名詞はおおむね可算名詞に該当する。ただし後述するように，可算・不可算を機械的に区別することは難しい。

可算名詞はさらに活動体名詞と不活動体名詞とに分けられる[12]。**活動体名詞**は与格で一般に-에게および-한테をとるもの，**不活動体名詞**は与格で-에게・-한테をとらず[13]，-에をとるものである。活動体名詞は-에게서・-한테서をとりえ，普通-에서はとらず，また名数詞개で数えることはしない。活動体名詞である動物名詞と人間名詞から順に見てゆくことにする。

### 4—1　動物名詞

活動体名詞のうち名数詞で마리（～匹・頭・羽）をとり，与格では普通

-더러をとらないもの[14]を動物名詞とする。いわゆる動物と考えられるものを指す名詞がおおむねこれにあたるので他と感覚的に区別しやすい：

개（犬）・나비（蝶）・조기（いしもち）・새（鳥）・새끼（動物の子）・플랑크톤（プランクトン）・호랑이（虎）など。

아메바（アメーバ）のように動物かどうか判断に迷うものが他の名詞との境界的な位置に来るわけである。なお言うまでもなく，生物学上の分類など言語外現実に対する分類は言語上に一定に映しだされていたとしても，言語における名詞の分類とはもとより無縁のものである。言語においては例えば도깨비（小鬼）などという，-더러も可能であり마리（匹）でも数えうるというやんちゃな存在もあって，動物名詞と人間名詞との境界を陣取っている。また食用に供された動物である조개（貝）などは，名数詞として개をとって後述の具体名詞で現れることが多い。なお，動物名詞に用いられる名数詞としては말 한 필（馬一頭）の필などもある。

動物名詞をつくる接尾辞には-조（鳥）・-어（魚）・-충（虫）・-아지（小さい動物），接頭辞には수-（雄）・암-（雌）などがある：

칠면조（七面鳥）・열대어（熱帯魚）・기생충（寄生虫）・강아지（小犬）・수컷（雄）・암탉（雌鶏）など。

鳴き声などの擬声語および擬態語から派生したと思われる動物名詞も多い：

개구리（蛙）・멍멍이（わんわん）・미꾸라지（どじょう）・뻐꾸기（カッコウ）など。

動物名詞が与格で-더러をとる場合には人間名詞扱い，即ち擬人法的な扱いの場合に限る。移動動詞の主語はこの動物名詞と次の人間名詞が圧倒的に多い。

「저것은 무엇입니까？――까치에요.」（あれは何ですか――かささぎです）のように，一般に疑問詞무엇（何）を用いた疑問文に対し動物名詞で

答えることはできるが，疑問詞누구（誰）に対して動物名詞で答えることはしない。動物名詞は疑問詞무엇に対応しているわけである。なお，これ以後，動物名詞に対する무엇のような関係にある疑問詞を単に<**対応する疑問詞**>と呼ぶことにする。

## 4—2　人間名詞

活動体名詞のうち与格で-더러をとりえ，名数詞に마리をとらないものは**人間名詞**である。名数詞では사람（～人），분（～かた：尊敬形），명（～名）をとる。**尊敬の体言語尾**-께・-께서をとりうるものも基本的にはこの人間名詞のみである：

4201）그 아가씨더러 그 사람하고 일찌감치 헤어지라고 그랬어.[15]
その娘に彼とはさっさと別れるように言ってやったよ。

4202）영숙이더러 물어봐.
ヨンスギに聞いてごらん。

4203）가족들과 함께 식사하고 싶어하기 시작한 아기들은 어른들 식탁 위에 놓인 음식에 더 관심을 보일 수가 있다. <主婦生活・編／오늘의 육아>
家族と共に食事をしたがりはじめた赤ちゃんたちは大人たちの食卓の上に置かれた食べ物により関心を示すことがある。

4204）그때 남자 몇 사람이 맥주병을 들고 플로어로 접근했다. <金聖鍾／悲恋의 火印>
そのとき男が数人ビール瓶を持ってフロアに接近した。

4205）아까부터 그녀 쪽으로 힐끔힐끔 시선을 던지는 젊은 남자가 한 명 있었다. <金聖鍾／悲恋의 火印>
さっきから彼女の方にちらちらと視線を投げかける若い男が一人いた。

4206）그리고는 무뚝뚝한 표정으로 뒷전의 동료들 쪽을 두리번거렸다. <黄晳暎／客地>

そして無愛想な表情で後ろの同僚たちの方を見回した。

4207) 그날 저녁 저는 온 집안 식구들의 웃음거리가 되었답니다. 식구들은…… 略<임국희＋우종범역음／바구니에 가득 찬 행복 3>

その日の晩，私は家中の家族たちの物笑いの種になったのです。家族たちは……[16]

겨레（はらから）・귀신（幽霊）・나그네（旅人）・단골（常連）・대중（大衆）・바보（あほ）・본토박이（土地っ子）・부처님（お釈迦さま）・사람（人）・손님（お客さん）・신（神）・악바리（負けず嫌い）・연인（恋人）・용왕（龍王）・이웃（隣人）・임자（持ち主）・처녀（娘）・천재（天才）・친구（友達）・친척（親戚）・풋내기（新米）・하나님（神様）など。

안중근（安重根）など**人間を表す固有名詞**もここに含める。言語外の事実として안중근と言う人物が複数はいないということと，「두 사람의 안중근」（二人の安重根）のように言語上では複数になりうるということとは区別しておく。하나님（キリスト教の神）なども同様である。

一連の**親族名詞**はこの人間名詞の下位範疇として考えられる：

고모（おば）・누나（姉）・딸（娘）・마누라（かみさん）・막내（末っ子）・삼촌（おじ）・아버지（父）・어머니（母）・형（兄）など。

職業名を表す**職業名詞**もこの人間名詞の下位範疇をなす：

교환（交換手）・광대（役者）・교수（教授）・머슴（小作人）・무당（巫女）・선생님（先生）・스님（お坊さん）・여공（女工）・의사（医師）・조수（助手）・학자（学者）など。

**接尾辞-님**は부모님（ご両親）や스승님（お師匠さま）のように人間名詞につく一方，具体名詞や動物名詞など人間名詞以外の名詞にもつくことがある。햇님（お日さま）や호랑이님（虎さん）などがそれで，こうした**擬人法**の名詞は尊敬の体言語尾-께・-께서もとりえ，人間名詞扱いとなる。

학생답다（学生らしい）や인간답다（人間らしい）のような形容詞を作

る接尾辞-답다（らしい）およびその副詞形の接尾辞-답게（らしく）がつくのは，人間名詞がほとんである。[17]

意志動詞[18]の主語となるのは基本的には人間名詞と4—3の団体名詞である。動物名詞など，人間名詞以外の名詞が意志動詞の主語となった場合は，多かれ少なかれ擬人法的な色彩を帯びることになる。

対応する疑問詞は누구（誰）および무엇（何）である。누구の答えとなるのは基本的に人間名詞のみである。

何らかのものごとに従事する人を表す接尾辞-꾼を持つ名詞はすべて人間名詞である：

구경꾼（見物人）・노름꾼（博打打ち）・농사꾼（百姓）・사기꾼（詐欺師）・사냥꾼（猟師）・씨름꾼（相撲取り）・일꾼（働き手）・장꾼（市で売り買いする人）・장사꾼（商売人）・제주꾼（器用人）・주정꾼（酔いどれ）・파수꾼（番人）・품팔이꾼（日雇い人夫）など。

上のように-꾼は後述の活動名詞や営為名詞につくことが多いが，次のようなものもある：

나무꾼（きこり）・술꾼（酒飲み）・지게꾼（チゲの担ぎ屋）など

-꾸러기・-뱅이・-장수・-장이（ソウルの話ことばでは-쟁이となることが多い）もまた人間名詞をつくる：

말썽꾸러기（厄介者）・심술꾸러기（意地悪）・욕심꾸러기（欲張り）・익살꾸러기（おどけ者）・잠꾸러기（寝ぼすけ）・장난꾸러기（いたずら小僧）など。

가난뱅이（貧乏たれ）・게으름뱅이（怠け者）・안달뱅이（心配症な奴）・장돌뱅이（市を回る行商人）・주정뱅이（酔いどれ）など。

떡장수（餅売り）・생선장수（魚売り）・신기료장수（靴直し）・엿장수（飴売り）など。

갓쟁이（かぶりものをかぶった人）・개구쟁이（腕白）・관상쟁이（人相

見）・거짓말쟁이（嘘つき）・겁쟁이（意気地なし）・게으름쟁이（怠け者）・고자질쟁이（告げ口屋）・고집쟁이（意地っ張り）・그림쟁이（絵描き）・깍쟁이（けちんぼ）・난봉쟁이（道楽者）・노래쟁이（歌い手）・늦잠쟁이（朝寝坊）・대장쟁이（鍛冶屋）・땜쟁이（鋳かけ屋）・뚜쟁이（取り持ちをする人）・멋쟁이（粋な者）・미쟁이（左官）・사진쟁이（写真屋）・수다쟁이（おしゃべり）・수선쟁이（騒々しい人）・심술쟁이（意地悪）・요술쟁이（魔法使い）・욕심쟁이（欲張り）・월급쟁이（月給取り）・익살쟁이（ひょうきん者）・잔소리쟁이（やかまし屋）・점쟁이（占師）・중매쟁이（仲人）・트집쟁이（けちばかりつける人）など。

**用言の連体形に-이のついた人間名詞**も見られる：

늙은이（年寄り）・못난이（愚か者）・어린이（子供）・엮은이（編者）・이쁜이（可愛い子）・젊은이（若者）・지은이（著者）など。

**人間名詞をつくる漢字語接尾辞**には，-가（家）・-객（客）・-공（工）・-관（官）・-민（民）・-범（犯）・-부（婦）・-사（師）・-사（士）・-생（生）・-아（児）・-원（員）・-인（人）・-자（者）・-장（長）・-주（主）・-한（漢）などがある：

사상가（思想家）・탑승객（搭乗客）・인쇄공（印刷工）・외교관（外交官）・피난민（避難民）・정치범（政治犯）・가정부（家政婦）・약사（薬剤師）・변호사（弁護士）・청강생（聴講生）・반역아（反逆児）・간호원（看護婦）・한국인（韓国人）・노동자（労働者）・편집장（編集長）・세대주（世帯主）・문외한（門外漢）など。

### 4—3　団体名詞

-에서がついて主語の働きをしうるものは団体名詞と考える。団体や機関を表す名詞である：

4301）<u>정부에서</u> 하는 일이라고 다 옳겠어요？
<u>政府で</u>やることだからってみんな正しいってわけじゃないでしょ？

나라（国）・당（党）・대학（大学）・일본대사관（日本大使館）・정보부

（情報部）・호텔（ホテル）・회사（会社）など。

-계（係）・-과（課）・-국（局）・-군（軍）・-단（団）・-대（隊）・-부（部）・-사（社）・-원（院）・-처（処）・-체（体）・-측（側）・-파（派）などの漢字語の接尾辞をもつものも一般に団体名詞である：

편집국（編集局）・음악대（音楽隊）・신문사（新聞社）・대학원（大学院）・학생처（学生係）・자치체（自治体）・회사측（会社側）・반대파（反対派）など。

**団体名・機関名を表す固有名詞**は一般に不可算であるが団体名詞の一種と考えておく。

団体名詞の中には，접수계（受付係）・팀（チーム）などの名詞を典型として，与格-에게をとって活動体となるものがある。[19] また一般に団体名詞は意志動詞の主語となりうるという点でも人間名詞に近い：

4302）그건 벌써 회사에서 결정했어요.
それはもう会社が決定しました。

その一方で団体名詞は，体言語尾-에서がついて場所を表す4—4の場所名詞にまたがる存在でもある。対応する疑問詞も무엇（何）の他に누구（誰）や어디（どこ）もありうるなど，団体名詞は様々な点で，活動体である人間名詞と不活動体である場所名詞との中間的な性質を持っている。

### 4—4　場所名詞

**場所名詞**は不活動体名詞のうち-에서がついて，あることがらが行なわれる場所，あるいは空間的な起点を表し，-로／-으로がついて主として方向を表すものを言う：

4401）그러면서 그저 연놀이에만 넋이 팔려 바닷가 언덕들만 쏘다니고 있었다.＜李清俊／해변아리랑＞
そうでありながらただ凧上げにのみ心を奪われて海辺の丘（複数）ばかりうろつき回っていた。

4402) 그러다가 우연히도 길에서 만나게 되었던 거예요. <고성의／마마의 눈>
そしたら偶然にも道で会うことになったんですよ。

4403) 그런 분위기에서 어떻게 공부를 할 수가 있단 말인가. <마광수／나는 야한 여자가 좋다>
そんな雰囲気でどうやって勉強することができるというのか。

4404) 책방을 한 군데만 더 들러 보기로 해요.
本屋にもう一軒だけ寄ってみることにしましょうよ。

고장（ふるさと）・고적（古跡）・곳（ところ）・도시（都市）・산（山）・장소（場所）など。

강（河）や바다（海）などのようにやや-들がつきにくい場所名詞もある。

場所名詞の名数詞としては上の책방（本屋）のように군데（～か所）がつきうるものが多いが，「백여 개의 강」（百あまりの河）のように개が用いられることもしばしばである。

-에서のあとに**移動動詞**が来る場合はことがらが行なわれる場所ではなく移動の起点を表すことがほとんどである。また空間的な起点を表す-에서のあとに来る形容詞としては멀다（遠い）・가깝다（近い）の頻度が圧倒的で，それ以外の形容詞はほとんど現れない。-로／-으로格で方向を表す名詞としては，この場所名詞と，5－1の位置名詞が大部分である。場所名詞と位置名詞が가다（行く）・오다（来る）などの**移動動詞**の主語になることはほとんどない。

場所名詞は-로／-으로格と**移動動詞**との組み合わせで移動の経路をも表しうる：

4405) 현국은 강변도로를 벗어나서 하얀 건물 지하주차장에 차를 대고는 비상구로 일층에 올라갔다. <金異然／독신녀 아파트>
ヒョングクは川辺道路をぬけて白い建物の地下駐車場に車を止め，非常口

から一階に上がった。

場所名詞に対応する疑問詞は어디（どこ）が基本である。[20]

**地名を表す固有名詞**は場所名詞である。ただし一般に-들はつかない。地名に用いられる接尾辞としては-산（山）・-시（市）・동（洞）・-면（面）・-리（里）・-역（駅）・-사（寺）など，種類は多い。ただし자금면（資金面）などの-면（面）は抽象名詞をつくるもので，ここには該当しない。

また**場所名詞をつくる漢字語接尾辞**には운동장（運動場）・수도권（首都圏）・지배하（支配下）における-장（場）・-권（圏）・-하（下）などがあり，미술관（美術館）・개발실（開発室）・연구소（研究所）における-관（館）・-실（室）・-소（所）などのように団体名詞とまたがるものもある。

場所名詞をつくる固有語の接尾辞的な名詞として-판がある。판は판을 치다（場を牛耳る）などの場合以外は不完全名詞的である：

노름판（博打場）・얼음판（氷のはったところ）・벌판（広野）・들판（野原）・싸움판（けんかの場）・술판（酒の席）・모래판（砂場）など。

터（場）も接尾辞的であるが，「터를 다지다」（地ならしをする）や「터가 없다」（土地がない）のようにも用いるなど自立性も高く，完全名詞と考えるべきであろう：

빨래터（洗濯場）・집터（敷地）・일터（仕事場）・놀이터（遊び場）・전쟁터（戦場）など。

### 4—5　具体名詞

不活動体名詞・可算名詞のうち主に具体物を表すものを**具体名詞**とする。様々な名数詞によってさらに細分化できる。**植物名**は基本的にここに入る。

対応する疑問詞は무엇（何）が基本である。

#### 4—5—1　개のつきうるもの

名数詞개は具体名詞のみならず多くの名詞につきうる[21]がここには**개で数える具体名詞**をあげる：

빵（パン）・사과（りんご）・바늘（針）・단어（単語）・구멍（穴）・고치

(繭)・무기（武器）など。

**4—5—2　하나，둘……と数えるもの**

바늘귀（針の穴）・다리（橋）など。

なお，설렁탕・갈비탕などのように-탕（湯）のつく料理や，구멍（穴）などは개**を用いる数え方と，하나・둘……という両方の数え方がある**。[22] この型も多い。

また，人間の身体の部分を表す名称，即ち**身体名詞**もしばしばこの二通りの数え方がなされる。身体名詞は，-에서をとって場所を表すことしばしばであり，具体名詞のうちにありながら場所名詞との境界的な位置を占めている。人間にとっては身体の部位もまた場所なのである。身体名詞をここでは具体名詞の下位範疇としておくが，語彙的な意味によって他と区別しやすいので具体名詞から独立させることも可能である：

4501）아내가 울고 있는 동안 그는 일어서서 바지에 두 손을 찌른 채 실내를 서성거렸다. <金聖鍾／悲恋의 火印>
妻が泣いている間彼は起き上がってズボンに両手をつっこんだまま室内をうろうろしていた。

4502）가죽같이 메마르고 딱딱한 손가락들이 떨려 자꾸만 흐트러졌다. <黃晳暎／客地>
革のようにひからびてかたくなった指（複数）が震え，しきりに乱れた。

4503）어느 산의 정상에서 다정하게 팔짱을 끼고 있었다. 활짝 웃은 얼굴들이었다. <고성의／마마의 늪>
ある山の頂上で仲よく腕を組んでいた。明るく笑った顔（複数）であった。

머리（頭）・발（足）・입（口）・심장（心臓）など。

**4—5—3　その他の名数詞がつきうるもの**

名数詞のガナダ順で示す：

책 한 권（本一冊）・나무 한 그루（木一本）・택시 한 대（タクシー一台）・

옷 한 벌（服一着）・꽃 한 송이（花一房）・약 한 알（薬一粒）・연필 한 자루（鉛筆一本）・종이 한 장（紙一枚）・집 한 채（家一軒）・배 한 척（船一隻）・구두 한 켤레（靴一足）など。[23]

4504）첫 책에 소설들을 쓸 때，나는 우리 도시 주변과 가까운 공업지구에 취재를 나가고는 했다．<趙世熙／침묵의 뿌리>
最初の本に小説（複数）を書くとき，私は我々の都市の周辺に近い工業地区に取材に行ったりした。

また，接尾辞-권（券）のつくものは장で数え，-기（機）・-기（器）のつくものは대，-복（服）は벌，-장（状）は장，-증（証）も普通장で数える。いずれも**具体名詞をつくる接尾辞**である：

입장권（入場券）・비행기（飛行機）・녹음기（録音器）・학생복（学生服）・초청장（招請状）・학생증（学生証）など。

具体名詞は-로／-으로格でものごとを行なう道具を表すことができる：

4505）자로 재고 저울로 달고，순임이는 규격에 맞게 맞추느라 온갖 정성을 다 쏟았다．<金異然／독신녀 아파트>
物差しで測って，秤で量って……（略）

なお，-로／-으로格の身体名詞の次のような例も道具の延長である：

4506）할아버지는 손으로 먼 산을 가리키셨다．
おじいさんは手で遠くの山をゆびさした。

### 4—6　事柄名詞

可算名詞の不活動体名詞のうち様々な抽象的概念を表すものを事柄名詞とする。[24] 名数詞としては他の不活動体名詞と同様，하나，둘……のほか，しばしば개（～個）が用いられる：

4601）그러다 보니 중매결혼이 더욱더 성행하게 되고，상대방의 마음이나 인품보다는 여러 가지 조건들을 더 따지게 되는 것이다．<마광수／

나는 야한 여자가 좋다>

……相手の心や人となりよりも様々な諸条件をより問題にしがちなのである。

4602) 그 사람의 또 다른 면모들을 볼 수 있었다.

あの人のまた別の面（複数）を見ることができた。

개념（概念）・고전（古典）・모습（姿）・사실（事実）・언어（言語）・음악（音楽）・이름（名前）など。

**漢字語接尾辞**-병（病）・-점（点）・-종（種）・-식（式）・-회（会）などをもつものもおおむね事柄名詞である：

전염병（伝染病）・문제점（問題点）・개량종（改良種）・결혼식（結婚式）・전람회（展覧会）など。

노래（歌）には노래 한 곡（歌一曲）のように名数詞곡が用いられる。具体名詞にやや近いが，ここに入れておく。

事柄名詞に対応する疑問詞は무엇（何）である。

可算名詞のひとつである事柄名詞と不可算名詞に属する抽象名詞・活動名詞とに大きくまたがった境界的な性格の名詞も多い。ある単語が数を意識して複数を示す接尾辞-들や名数詞を用いることが可能であるかどうかは，母語話者でも判断に迷う場合が多いことを見ても，朝鮮語における加算名詞と不可算名詞との境界は事柄名詞と抽象名詞・活動名詞をまたいだ，非常に<ゆるい>境界なのだということがわかる。고비（やまば）・문명（文明）など，あるいはまた**接尾辞**-관（観）・-제（製）をもつものなどは抽象名詞との境界的な例であろう：

세계관（世界観）・독일제（ドイツ製）など。

次の말（言うこと・ことば）や시험（試験）・고민（悩み）のように事柄名詞と活動名詞との境界的な例も多い：

4602) 탁자 위에 술병들은 늘어만 가고, 그는 점점 술로부터 힘을 얻는

지 쓸데없는 말들을 신이 나서 늘어놓고, 우습지도 않은 말을 혼자 하고는 크게 소리를 내며 웃고는 하는 거였읍니다. <임국희・우종범역 유／바구니에 가득 찬 행복3>

……つまらないことどもを興に乘って並べたて，おかしくもないことを一人で言って……

4603) 또 모든 시험들이 다 골라잡기식의 객관식 문제들이다. <마광수／나는 야한 여자가 좋다>

またあらゆる試験（複数）がみな選択式の客観式問題だ。

4604) 그 많은 고민들을 어떻게 처리해야 좋을지 몰랐다.

その多くの悩み（複数）をどう処理してよいかわからなかった。

대답（答え）・생각（考え）なども活動名詞にまたがるものである。

事柄名詞＋에서や事柄名詞＋로부터／으로부터と動詞연유되다・빚어지다などとの組み合わせで，ものごとの動機や原因を表すことがある。団体名詞にはこの働きはなく，場所名詞でも稀である：

4605) 그런 사실에서／사실들로부터 연유된 당연한 결과였다.

そういう事実から／諸事実からもたらされた当然な結果であった。

## 5　不可算名詞

### 5—0　不可算名詞

複数を示す接尾辞-들がつかず，名数詞も普通用いられない名詞を**不可算名詞**と呼ぶ。不可算名詞は基本的にすべて不活動体である。

### 5—1　位置名詞

不可算名詞のうち，책상 위における위のようにふつう格語尾-φ のあとにつき，位置を表すものを**位置名詞**とする。格語尾-의のあとにつくことはまれである。格語尾-에서がつくと場所・空間的起点を表す。位置名詞は数こそ少ないが頻度は高い：

5101) 앞에서 뒤를 돌아다보았다.

前から後ろを振り返った。

가운데（まんなか）・곁（脇）・끝（端）・밑（真下）・밖（外）・사이（間）・아래（下）・안（内）・옆（横）・위（上）など。

次の상상（想像）のように，単独では場所を表しにくい名詞を場所化するのにこの位置名詞が用いられることが多い。

5102）그래서 다만 상상 속에서 그런 손톱의 여인을 그리워하고 있었는데 뒤늦게 K가 나타난 것이다. <마광수／나는 야한 여자가 좋다>
それでただ想像の中でそんな爪の女性を思っていたところ，あとからKが現れたのである。

位置名詞と場所名詞との中間的な名詞群として구석（隅）・꼭대기（てっぺん）・맞은편（向かい側）・모퉁이（角）・바깥（外）・복판（真ん中）・안팎（内外）・언저리（へり）などがあげられる。

場所名詞と性格が似てはいても位置名詞は複数を示す接尾辞-들がつかない点が異なる。接尾辞-들がつかない点では地名も同様であるが，책상 위のような格語尾ゼロのあとについて位置を表す用法がないので地名はやはり場所名詞として考えておく。

対応する疑問詞は어디（どこ）である。なお，어디に対応するのは基本的に場所名詞と，この位置名詞のみである。

쪽（ほう）・편（ほう）も位置名詞に似ているけれども自立性が弱く，不完全名詞的な性格が強い。편が修飾語なしで用いられるのは「편을 들다」（かたをもつ）などの場合ぐらいである。

### 5—2　時間名詞

不可算名詞のうち，格語尾の-부터がつきうるものを**時間名詞**と考える。「그 책부터가」（その本からして）など，様態語尾（モーダルな語尾）の-부터はどんな名詞にもつくので指標にはならない[25]。格語尾-에서はつかないのが普通だが，つきえるものでも場所ではなく時間的起点を表す。-에がつくと時間を表す：

5201）그 날은 아침부터 비가 내렸다. <金聖鍾／悲恋의 火印>
その日は朝から雨が降った。

5202）장윤길은 20일 밤에 살해됐읍니다. <고성의／마마의 눈>
チャンユンギルは20日の夜に殺害されました。

5203）그 시간에 저는 그 분과 같이 있었어요. <고성의／마마의 눈>
その時間に私はその方と一緒にいました。

5204）이기사, 나 오늘부터 운전을 배울까봐요. <金異然／독신녀 아파트>
李さん，私今日から運転を習おうかな。

5205）점심 시간이 훨씬 지난 늦은 오후였다. <고성의／마마의 눈>
昼食の時間をはるかに過ぎた遅い午後であった。

5206）이제부터 계약을 하자니까. <金異然／독신녀 아파트>
今から契約をしようってば。

그믐（晦日）・때（とき）・봄（春）・상순（上旬）・이십세기（20世紀）・이십일（二十日）・이튿날（翌日）・일월（一月）・일제시대（日帝時代）・지금（今）・직전（直前）・처음（始め）・해방후（解放後）など。

時間名詞に対応する疑問詞は언제（いつ）である。언제に対応する名詞は，基本的には後述の数量名詞とこの時間名詞のみである。

なお，時間名詞の中には이제のように-에がつきえないものもまま見られる。

**体言語尾-를／-을がついて期間を表す状況語になれる**のは，사흘을（三日の間）のような数詞，「한 시간을」（一時間の間）のように名数詞を持つもの，「자고 있는 동안을」（寝ている間中）のように동안を持つもの，およびこの時間名詞のみである：

5207）新婦는 초록 저고리 다홍치마로 겨우 귀밑머리만 풀리운 채 新郎하고 첫날밤을 아직 앉아 있었는데，……<徐廷柱／新婦>
新婦はもえぎ色のチョゴリに韓紅のチマ姿で，やっと髪をとかれたまま，新郎と初夜をまだ座ったままでいたのでしたが……

청년기（青年期）や반항기（反抗期）の接尾辞-기（期），日を示す-일（日）や-일날（日），月名をつくる接尾辞-월（月）や-월달（月）は時間名詞をつくる：

5208）사내는 물론 오래 전 소년기에 마을을 떠나간 금산댁의 둘째였다.
<李清俊／해변아리랑>
男はもちろん，はるか昔，少年期に村を出た金山宅の次男だった。

삼일절（三一節）や단오절（端午節）における接尾辞-절（節）を持つものは時間名詞と抽象名詞との境界的な例であろう。

また육이오（6・25）なども時間名詞に極めて近い位置を占める抽象名詞であろう。기회（機会）は可算で，時間名詞に近い事柄名詞である。

単独では時間を表しにくい名詞を時間名詞化するのには時間名詞때（とき）などがしばしば用いられる。「육이오부터」がなじまないときには때を入れて「육이오 때부터」（6・25のときから）となるわけである。「학교때부터」（学校のときから）などの例もある。

時間名詞はまた이제（今・今や）や아까（さっき）などのように副詞とまたがるものがあり，금방（すぐ）などへと連なっている。

### 5—3　数量名詞

数量や単位を表す名詞は**数量名詞**である。数詞や名数詞との境界的な位置にある名詞である。広義には数詞や名数詞もこの数量名詞に含めて考えることもできる：

5301）삼인분 주세요.
三人分ください。

接尾辞-분（分）を持つ上のような例を典型的な数量名詞と考えうるであろう。

広義に考えると，**<数詞＋名数詞>という組み合わせ**を一つの名詞と考えることも可能で，そうした場合これも数量名詞に分類されることになる。ただ，これには次のような様々な段階がある[26]：

①連続量を示すもの：일 킬로（一キロ）・천원（千ウォン）・두 시간（二時間）など。

②割合を示すもの：일할（一割）・십 프로（十パーセント）など。

上のような，連続量や割合を示すものは一単語的な性格が強く，数量名詞として考えてもよさそうである。

③席次番号を示すもの：일등（一等）・일번（一番）

このあたりまでが数量名詞の圏内であろう。次のようなものになるともうあまり名詞的ではない：

④順序を示すもの：첫째（一番目）・두 번째（二回目）

⑤回数を示すもの：한 번（一度）

⑥分離量を示すもの：하나[27]（ひとつ）・둘（ふたつ）・세 개（三個）・네 벌（四着）など。

⑦数を示すもの：일（一）・이（二）など。

数量名詞は時間名詞や抽象名詞へと連なっていることがわかる。일종（一種）や일련（一連）などになるともう抽象名詞に入ると考えてよい。

また，数量名詞のうちに数詞までも含めて考えるとすると，하나は한，둘は두，셋は세，넷は네という冠形詞形をもつことが，数詞を名詞にいれる際の問題点の一つとなる。また名数詞の前には数詞のみが立ちうるし，-이서（…人で）のように数詞にしかつかない語尾もあって，品詞としては数詞はやはり名詞と区別して扱ったほうがよさそうである。いずれにせよ数量名詞は数詞へも連なる一群であることは間違いない。

数量名詞に対応する疑問詞は얼마（いくら）・언제（いつ）・몇（いくつ）などである。

### 5—4　物質名詞

不可算名詞のうち，格語尾-로／-으로と生産動詞만들다などとの組み合わせで材料を表すものは**物質名詞**である。**料理の材料名・鉱物名・液体や気体の物質名**などはほぼこの物質名詞に属する：

5401) 플래스틱은 석유로 만듭니다.
プラスチックは石油で作ります。

5402) 그 가방은 가죽으로 만든 겁니까?
そのかばんは革で作ったものですか。

가스（ガス）・고기（肉）・고추가루（とうがらし粉）・고추장（とうがらしみそ）・공기（空気）・금（金）・기름（油）・물（水）・석호（石膏）・소금（塩）・우유（牛乳）・흙（土）など。

対応する疑問詞は무엇（何）である。

**物質名詞をつくる接尾辞**としては-물（物）・-분（分）・-수（水）・-유（油）・-제（剤）・-체（体）などがある：

화합물（化合物）・철분（鉄分）・지하수（地下水）・휘발유（揮発油）・활성제（活性剤）・절연체（絶縁体）など。

物質名詞は可算名詞ではないので，量を表す場合には次の컵（コップ）のような単位を表す名詞あるいは名数詞をしばしば用いる：

5403) 물 한 컵만 주세요.
水一杯ください。

抽象名詞のうちの現象名詞である눈（雪）などの例でわかるように，抽象名詞・動物名詞・具体名詞でありながら物質名詞とまたがっているものも多い：

5404) 어제 내린 눈으로 눈사람을 만들었습니다.
きのう降った雪で雪だるまを作りました。

### 5—5　抽象名詞

他の不可算名詞を除いた，様々な事象・現象・関係を表す名詞群は**抽象名詞**としてまとめることができる：

5501) "키가 몇 센티인가?" "165요." <金異然／독신녀 아파트>

「背は何センチ？」「165です。」

5502）그때의 슬픔을 누가 알 수 있을까요？ <임국희・우종범엮음／바구니에 가득 찬 행복3>
あの時の悲しみを誰がわかってくれるでしょう。

각종（各種）・간（塩気）・고속도（高速度）・넓이（広さ）・도덕（道徳）・마음（心）・병（病）・소문（噂）・앙심（恨み）・애（苦労）・양（量）・엉터리（でたらめ）・인연（因縁）・전기（電気）など。

自然現象などを表す**現象名詞**とでも呼べる一群もここに属する：

5503）비를 맞으며 서 있는 그 모습은 더없이 가련해 보였다. <金聖鍾／悲恋의 火印>
雨に濡れながら立っているその姿はまたとなくかわいそうに見えた。

가뭄（ひでり）・거품（泡）・구름（雲）・냄새（匂い）・눈（雪）・먼지（ほこり）・바람（風）・벼락（雷）・볕（日差し）・불（火）・서리（霜）・소나기（にわか雨）・소름（鳥肌）・안개（霧）・연기（煙）・이슬（露）・장마（長雨）・향기（香り）など。

抽象名詞には여부（するかいなか）や여하（の如何）のように不完全名詞的なものもある。

천원（千ウォン）の원などは名数詞だが，次のような場合は数詞を伴わない自立した名詞で，こうした**計量の基準を表す名詞**は抽象名詞と考えたほうがよい。(28)

5504）원으로 환산하면 얼마가 됩니까？
ウォンに換算するといくらになりますか。

5505）요즘 딸라가 많이 떨어졌대요.
最近，ドルがずいぶん安くなったそうです。

킬로（キロ）・미터（メートル）・엔（円）など。

**-부리다がついて動詞となる一群の名詞**はおおむね抽象名詞である。固有語が多い：

게으름（なまけ）・피（知恵）・눅장（ぐずぐずすること）・말썽（問着）・아양（媚）・앙살（おおげさにたてつくこと）・앙탈（はむかうこと）・어리광（あまえ）・억지（ごり押し）・응석（あまえ）・익살（おどけ）・행패（狼藉）など。

**動詞をつくる-되다**は抽象名詞にはつかない。

값に-지다がついて값지다という形容詞ができる。こうした**形容詞をつくる-지다**がつきうるのはこの抽象名詞か기름（油）のような物質名詞が多い：

값（値）・멋（物事の味）・네모（四角）・구석（隅）・비탈（坂）など。

**抽象名詞をつくる漢字語接尾辞**は多い。-감（感）・-교（教）・-권（権）・-급（級）・-법（法）・-별（別）・-사（史）・-상（上）・-성（性）・-식（式）・-심（心）・-용（用）・-율／-률（率）・-제（制）・-학（学）など：

소외감（疎外感）・기독교（基督教）・소유권（所有権）・과장급（課長級）・표기법（表記法）・능력별（能力別）・세계사（世界史）・역사상（歴史上）・사회성（社会性）・한국식（韓国式）・노파심（老婆心）・남자용（男子用）・성장률（成長率）・민주제（民主制）・언어학（言語学）など。

色の名称である**色彩名詞**も抽象名詞の下位区分をなす：

빨강（赤）・녹색（緑色）・자주빛（赤紫）など。

広義には，後述する形容名詞も抽象名詞の一種である。

抽象名詞に対応する疑問詞は무엇（何）が基本である。

### 5—6　性質名詞

不可算名詞のうち，-하다をつけると形容詞となるものを**性質名詞**とする。ほとんどが漢字語である：

5601）하지만 그만큼 저의 불안은 감당할 수 없을만큼 깊어만 갔고 이미 좋아하게 된 그를 만나기가 두려웠읍니다. ＜임국희・우종범역음／바구니에 가득 찬 행복3＞
けれどもそれほど私の不安は耐えられぬほどにつのるばかり，もう好きになってしまった彼に会うのが怖かったのです。

5602）시장이 반찬이다. ＜諺＞
空腹がおかずだ。

가난（貧しさ）・건강（健康）・무관심（無関心）・무리（無理）・불편（不便）・성실（誠実）・안녕（安寧）・안전（安全）・위험（危険）・진실（真実）・친절（親切）・평등（平等）・피로（疲労）・필요（必要）・행복（幸福）・혼란（混乱）など。

무리（無理）は무리하다という形容詞と動詞の二つがあるので性質名詞と活動名詞にまたがっていると言える。

**接頭辞불-／부-（不）のついた名詞**にはこの性質名詞が多い：

부조리（不条理）・부도덕（不道徳）・불합리（不合理）・불친절（不親切）など。

「안녕을 빌다」（安寧を祈る）や「안전을 기하다」（安全を期する）のように，性質名詞は書きことば的な文体で好まれる傾向がある。通常の話ことばでは안녕하다（お元気だ）・안전하다（安全だ）・침착하다（沈着だ）・평등하다（平等だ）等々のように하다形容詞が用いられる頻度がはるかに高く，침착（沈着）・평등（平等）のような性質名詞で用いられる頻度は低い。それゆえ，この性質名詞には，가능（可能）のように辞書には名詞として登録されているにもかかわらず，実際には가능하다という形容詞としてしか用いられないものも多い。現行の辞書にとりあげられている語彙については，実際にその品詞で用いられているのかどうかという，こうした検証が必要である。

性質形容詞に対応する疑問詞は어떻다（どんなだ）であるが，性質名詞

に対応する疑問詞はやはり무엇（何）であろう。

性質名詞は修飾語なしで-의格をとることは稀である。불안의 늪（不安のどん底）などというのは珍しい例である。**動詞をつくる-되다**も혼란（混乱）などわずかな例を除いてはつかない。「…になる」の意の**-가／-이 되다**がつくことや**-이다**（…である）がついた述語形で用いられることも少ない。

## 5—7　活動名詞

不可算名詞で，-하다をつけると動詞になるもののうち，-를／-을 가다／오다がつきえないものが**活動名詞**である。なお，活動名詞に-하다のついた動詞は**活動動詞**と呼んでおく。活動名詞の多くは漢字語である：

5701（현데 사건은 내려서부터 시작이었어요. 글쎄，내 뒤를 따라오며 떠들기 시작하는 거예요. ＜임국희・우종범역음／바구니에 가득 찬 행복3＞
けれども事件は降りてからが始まりだったのです。何と，私のあとについてきて騒ぎ始めるのです。

5702）“음악 좋아하십니까？”하는 남자의 물음에 나는 좋아하는만큼 아는 건 별로 없다고 겸손한 대답을 했읍니다. 그랬더니 내 대답에 이어서 명애가 “물방아간의 아가씨를 작곡한 사람이 슈베르트였죠？”하면서 화제를 슈베르트 쪽으로 몰고가는 것이었읍니다. ＜임국희・우종범역음／바구니에 가득 찬 행복3＞
……と謙遜した答えをしました。そうしたら私の答えに続いてミョンエが……

5703）은근히 머리쪽으로 화제를 몰고 가면서 상대방의 곱슬머리가 파머한 머리는 아닌가를 유도심문하려는 실례를 범하려는 찰나，전 명애의 무릎을 꼬집어서 무례의 고비를 넘기게 했읍니다. ＜임국희・우종범역음／바구니에 가득 찬 행복3＞
……誘導訊問しようとする失礼を冒そうとする刹那，……

上の실례（失礼）は活動名詞，무례（無礼）の方は-하다をつけると形容

詞になるので性質名詞である。

5704）이렇게 힘없이 입을 연 저의 얼굴엔 계획에도 없는 눈물이 흐르고 말았읍니다. <임국희・우종범역음／바구니에 가득 찬 행복3>
……顔には計画にもなかった涙が流れ……

5705）서둘러 선배 언니가 일러준 찻집에 들어서서는 언니와 함께 앉아 있는 낯선 남자 앞에 다소곳이 앉아 호흡을 가다듬었읍니다. <임국희・우종범역음／바구니에 가득 찬 행복3>
……呼吸を落ち着けました。

活動名詞には心的な活動を表すものと社会的な活動を表すものがある。**心的な活動を表す活動名詞**には次のようなものがある：

각오（覚悟）・감격（感激）・고민（悩み）・고생（苦労）・의식（意識）・자랑（自慢）・조심（用心）・호흡（呼吸）など。

**社会的な活動を表す活動名詞**は次のようなものである：

가위바위보（じゃんけん）・고학（苦学）・꾸지람（小言）・도급（請け負い）・도달（到達）・문단속（戸締まり）・발전（発展）・보급（普及）・보존（保存）・복사（複写）・사과（詫び）・사치（贅沢）・설거지（食事の後片付け）・성장（成長）・소매（小売り）・인쇄（印刷）・저지（阻止）・전공（専攻）・접근（接近）・제외（除外）・진보（進歩）・첵아웃（チェックアウト）・칼부림（刃物沙汰）・포함（含むこと）など。

4－6で述べたように고민（悩み）や조심（用心）など事柄名詞とまたがるものもしばしばある。

5706）하지만 고민도 그날부터 시작되었읍니다. <임국희・우종범역음／바구니에 가득 찬 행복3>
しかし悩みもその日から始まったのです。

対応する疑問詞は基本的には무엇（何）をあげることができる。
活動名詞は-로／-으로格で道具ではなく手段や方法となる：

5707) 내 노력으로 할 수 있는 건 뭐든지 하겠지만, 밥값도 우리 먹는 대로 주니까 신경쓸 것 없고…… 略<金異然／독신녀 아파트>
私の努力でできることは何だってするけれど，……

**仕事を表す接尾辞-질を持つ名詞はおおむね活動名詞である：**

거둠질（取り入れ）・곁눈질（脇見）・고자질（告げ口）・괴질（器に果物や菓子を積み重ねること）・누비질（差し子縫い）・달음박질（駆け足）・달음질（駆け足）・도리깨질（麦打ち）・동냥질（物乞い）・딸꾹질（しゃっくり）・땜질（鋳かけ）・뜨개질（編み物）・뜨께질（探りをいれること）・뜸질（灸を据えること）・말질（言いたてること）・못매질（袋叩き）・박음질（返し縫い）・반말질（ぞんざいに言うこと）・발길질（足蹴）・발질（足蹴）・사냥질（狩）・소꿉질（ままごと）・손가락질（指差し）・손질（手入れ）・숨바꼭질（隠れんぼう）・시침질（仮縫い）・싸움질（喧嘩）・양치질（歯を磨くこと）・입질（言いふらし）・주먹질（拳をふるうこと）・찜질（湿布）など。

人間名詞に-질がつく活動名詞もある。この一群は職業などをややおとしめて言うときに用いられる：

강도질（強盗）・계집질（女遊び）・깡패질（極道すること）・도둑질（泥棒）・선생질（先生稼業）・종질（しもべ暮らし）など。

道具を表す具体名詞に-질がついてできる活動名詞も多い。これらにはおとしめて言う性格はなく，中立的な文体の名詞である：

가위질（はさみを使うこと）・갈퀴질（熊手を使うこと）・걸레질（雑布がけ）・끌질（のみを使うこと）・바느질（針仕事）・삯바느질（針仕事）・다리미질（アイロンかけ）・다듬이질（砧をうつこと）・대패질（かんなかけ）・도끼질（斧で切ること）・망치질（槌打ち）・매질（鞭打ち）・맷돌질（臼でひくこと）・부채질（扇ぐこと）・비누질（石鹸をつけること）・빗질（髪をすくこと）・숟가락질（さじをつかうこと）・인두질（こてを当てること）・젓가락질（箸の上げ下ろし）・지게질（背負い子で運ぶこと）・채

찍질（鞭打ち）・칼질（刃物で仕事をすること）・키질（箕でふるうこと）・톱질（鋸仕事）・풀질（糊づけ）・행주질（ふきんがけ）など。

-질を持つ名詞は낚시질（釣り）などを典型として営為名詞にまたがるものがままある。

接尾辞-시（視）や-화（化）を持つ名詞は活動名詞である：

동일시（同一視）・적대시（敵対視）・중대시（重大視）・추상화（抽象化）・합리화（合理化）など。

先の性質名詞や次の営為名詞には-되다がつかないのに対し，活動名詞には-되다がついて動詞となるものも多い。

次の야단（大騒ぎ）のような名詞は-들が야단それ自体の複数を示す接尾辞ではなさそうだが曖昧で，可算名詞か不可算名詞か判断が難しい：

5708）……등등 친구들은 저마다 한 마디씩 야단들이었지만…… 略<임국희・우종범엮음／바구니에 가득 찬 행복3>
……等々，友達は皆それぞれに一言ずつ大騒ぎだったが……

やはり，可算と不可算の境界は曖昧なのである。

### 5—8　営為名詞

不可算名詞で，-(를／을) 하다をつけると動詞となるもののうち，-를／-을 가다／오다（…しに行く／来る）がつきうるものを**営為名詞**と呼ぶ：

골프（ゴルフ）・구경（見物）・귀양（流配）・낚시질（釣り）・도망（逃亡）・망명（亡命）・목욕（入浴）・빨래（洗濯）・사냥（狩り）・세배（年始回り）・소풍（遠足）・쇼핑（ショッピング）・수영（水泳）・심부름（使い）・여행（旅行）・영화（映画）・원정（遠征）・유학（留学）・이민（移民）・이사（引越）・인사（挨拶）・전근（転勤）・진찰（診察）・채집（採集）・출장（出張）・피서（避暑）など。

営為名詞のほとんどは基本的に-되다がつかない。なお，営為名詞に-하다をつけてできた動詞を**営為動詞**と呼ぶことにする。営為動詞の主語は普通は人間名詞である。動物名詞などが営為動詞の主語になることは少ない。動物は普通，헤엄치다（泳ぐ）ということはしても수영（水泳）はしないのである。動物名詞が営為動詞の主語になれば当然**擬人法**的な色彩を帯びる。

参考までに言えば，「조사를 실시하다」（調査を実施する）のように，-를／-을格をとる活動動詞は多いけれども，「환자를 진찰하다」（患者を診察する）のように-를／-을格をとりうる営為動詞は比較的少ない。

営為名詞は移動に関連するものが多いが，移動を表す名詞でも，이동（移動）・이전（移転）・접근（接近）など，하다動詞となった時に人間名詞以外のものが主語になりうるもの，および유배（流配）など-당하다や-되다がつきうるものは営為名詞とならない。単なる移動に関連した名詞なのではなく，「外出名詞」とでも言うべき，どこまでも人間の主体的な営みを表す名詞なのである。なお，구경（見物）は「구경을 가다」とも「구경을 하러 가다」とも言えるように，営為名詞はすべて「営為名詞＋를／을 가다」と「営為名詞＋를／을 하러 가다」（…しに行く）の形をとりうるけれども，営為名詞以外の名詞は「-를／-을 하러 가다」の形しかとりえない。일（仕事）は「일을 하러 가다」（仕事をしに行く）としか言えないわけである。[29] また，活動名詞と違って，営為名詞には心的な営みを表す名詞はない。

対応する疑問詞としては무엇（何）をあげうる。

### 5—9　名詞の形をした用言と用言的な名詞群

営為動詞や活動動詞は하다のない形で，つまり営為名詞や活動名詞の形で，文における接続形的な役割を果たすことがある。この用法は，構文論的には動詞であるにもかかわらず，形の上だけから見ると名詞的でもあって，名詞と動詞の境界的な位置にあるものである。書きことば，とりわけ新聞や辞書などの文体で好んで用いられる：

5901）1909년 중국 청도(青島)로 <u>망명</u>，14년에는 만주와 백두산 등 우

리 민족 고대 활동무대를 답사하였다. <中央大百科>
1909年，中国青島に亡命，14年には満州や白頭山など我が民族の古代の活動舞台を踏査した。

5902）각대학 총학생회측도 이 과정에서 교양과정에 대한 자체적인 여론 조사를 실시，이를 바탕으로 학교측에 독자적인 개편안을 제시하는 등 학사행정에 적극 참여하고 있다. <東亜日報／1989.9.9>
各大学の総学生会側でもこの過程で教養課程についての自主的な世論調査を実施，これをもとに学校側に独自の改編案を提示するなど，学事行政に積極参与している。

新聞の見出しなどでは性質名詞の形をした用言も用いられる：

5903）올 김장 양념류 풍족 <東亜日報／1989.9.26>
今年のキムチの薬味類豊か

5904）탱크 장갑차에 깔려 죽은 屍体 즐비 <東亜日報／1989.6.5>
戦車・装甲車に轢かれ死んだ死体櫛比

以上のように営為名詞・活動名詞・性質名詞は名詞の中でもとりわけ用言に隣接した，**用語的な名詞**だといってよい。

## 5—10　形容名詞

菅野裕臣（1981）（1988）は**接尾辞-적**（…的）を持つ語を**形容名詞**とした。本稿でもこれに従う。語彙的な意味の点では，広義には抽象名詞の一種と考えうる。形容名詞は，例えば-식（…式）など，他の接尾辞のついた単語と比較すると，한국식의（韓国式の）のように体言語尾-의をとらず，한국적인（韓国的な）のように指定詞-이다（…である）の連体形をとったり，「한국적이 아니다」（韓国的ではない）の他に「한국적이지 않다」という形容詞的な否定形もあるなど，特異である。接尾辞-적は非常に生産性が高い：

시적（詩的）・압도적（圧倒的）・예술적（芸術的）など。

対応する疑問詞としては어떻다（どんなだ）という形容詞をあげうる。この点からしても形容名詞は他の名詞とは異質だと言ってよい。

## 6　名詞分類の意義

### 6—1　名詞分類の gradation-matrix

これまで述べてきた完全名詞の各範疇について簡単にまとめてみると40頁の表（matrix）を得ることができる。この表は，各名詞がそれぞれの項目について該当するかどうかという＋－の二分法を適用したものではなく，各名詞がそれぞれの項目について該当すると思われる確率を濃淡（gradation）で表したものである。濃い部分は非常にしばしば該当するもの，薄い部分はより蓋然性の低いもの，白地の部分は全く該当しないか，ほとんど該当しないものである。音韻論を始めとして言語学でしばしば用いられてきた＋－という二者択一の表を black-and-white matrix と呼ぶならば，ここで用いた表は gradation-matrix とでも呼ぶべきものである。

この gradation-matrix によると，例えば動物名詞と人間名詞は，格語尾の観点で明らかに濃度の異なりを見せ，同時に名数詞や造語接尾辞の観点でも濃度差を示している。このように，一見何ら直接的関連のなさそうな，格語尾と名数詞・造語接尾辞……といった諸条件が申し合わせたようにそれぞれ名詞を区別だてているということは驚くべきことであると言わねばならない。名詞はこうして，syntax や単語結合，造語，語彙的な意味など，様々な観点に照らし，ある場合には互いに対立しあい，ある場合には互いに統一しあって，おのずからまとまりをなしているのである。本稿ではまさにこうしたそれぞれのまとまりを名詞の語彙的＝文法的な範疇として述べてきたのであった。語彙の分類は恣意的な条件によってなされるべきではなく，様々な観点を総合して見なければならない。そうすれば，おのずから群をなす語彙の姿が浮かび上がってくるのである。

### 6—2　名詞分類の意義

class は語彙的＝文法的分類であるからこれまでにもしばしば言及したように単語結合や構文論にも大きなかかわりを持つ。例えば，形容詞밉다

（明るい）は次のような単語結合で用いられる：

具体（KON）／場所（LOK）／事柄（AFR）／位置（POZ）-가／-이 밝다

그 방이 더 밝아요. その部屋がもっと明るいですよ。

人間（HOM）-가／-이 事柄（AFR）／抽象（ABS）／活動（AKT）／営為（AGO）-에 밝다

그 사람은 야구에 밝아요. 彼は野球に明るいです。

動詞가다（行く）なら次のような型をあげることができる：

場所（LOK）／位置（POZ）-에 가다

형은 학교에 갔습니다. 兄は学校へ行きました。

人間（HOM）-한테／-에게 가다

형한테 가 봐. 兄さんのところへ行ってごらん。

場所（LOK）／位置（POZ）-를／-을 가다

이 길을 가십시오. この道をお行きください。

営為（AGO）-를／-을 가다

구경을 갔습니다. 見物に行きました。

조르다（締める・せがむ）の例も見ておく：

具体（KON）-를／-을 조르다

목을 졸라 죽였다. 首を締めて殺した。

人間（HOM）-를／-을 조르다

돈을 달라고 아버지를 졸랐다. 金をくれと父にせがんだ。

上のように，名詞の classを 用いて，例えば用言の単語結合のしかたを記述することが可能である。[30] 朝鮮語の連語論を考察するにあたっては名詞の class の研究[31]は不可欠のものであると言えよう。こうして他の品詞の分類，特に用言の分類と併せて考えることによって朝鮮語の言語事実はより系統だてて把握することができる。一体どういう種類の名詞が，どのような体言語尾を従え，どのような用言と結びつくことによって，どのような意味として実現するのかということを捉えることができるのである。これ

●完全名詞の gradation-matrix

| 主な下位範疇と例 | 格語尾 | | | | | | | | | | | 複数の接尾辞 | 名数詞 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | -가/-이 ❶ | -을/-은 | -의 | -에 | -에게 | -더러 | -께 | -에서 | -에게서 | -부터 ❷ | -로/-으로 | -들 ❸ | 개 | 마리 | その他 |
| 動物名詞 개，새，멍멍이 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人間名詞 사람，남자<br>職業名詞・親族名詞 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 団体名詞 회사，정부，팀 | | | | | | | | ❹ | | | | | | | |
| 場所名詞 산，장소，고장 | | | | | | | | | | | ❺ | | | | |
| 具体名詞 사과，책，머리<br>身体名詞 | | | | | | | | | | | ❻ | | | | |
| 事柄名詞 조건，사실，개념 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 位置名詞 앞，위，끝 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 時間名詞 아침，봄，오늘 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 数量名詞 삼인분，천원<br>（広義には数詞も） | | | | | | | | | | | | | | | |
| 物質名詞 물，가스，금 | | | | | | | | | | | ❼ | | | | |
| 抽象名詞 슬픔，키<br>現象名詞・色彩名詞 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 性質名詞 건강，안전，불편 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 活動名詞 계획，조심，시작<br>사과，감동 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 営為名詞 구경，쇼핑，유학<br>수영 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 形容名詞 시적，압도적 | | | | | | | | | | | | | | | |

1）-가/-이 뒤다は含まない。　2）47頁の註(25)参照。　3）44頁の註(10)参照。
4）主語になりうる。　5）主として方向を表わす。　6）道具を表わすものが多い。

| | 主な接尾辞・接頭辞 | 意志動詞の主語 | 対応する疑問詞 | | | | | 固有名詞の有無 | -은/-을 가다 | 用言をつくる造語接尾辞のつき方 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 누구 誰 | 무엇 何 | 어디 どこ | 언제 いつ | 몇 いくつ | | | -답다 形 | -하다 形 | -하다 動 | -부리다 動 | -되다 動 | -반다 動 |
| 動物名詞 4-1 ⑧ | -鳥，-魚，-蟲，-이 -아지，수-，암- | | | | | | | | | | | | | | |
| 人間名詞 4-2 | -님，-꾸러기，-뱅이 -꾼，-장이，-이，-家 | | | | | | | | | | | | | | |
| 団体名詞 4-3 | -係，-課，-局，-部 -院，-處，-側，-派 | | | | | | | | | | | | | | |
| 場所名詞 4-4 | -山，-市，-驛，-場 -圈，-下，-관，-터 | | | | | | | | | | | | | | |
| 具体名詞 4-5 | -湯，-機，-器，-服 -狀，-證，-券，-車 | | | | | | | | | | | | | | |
| 事柄名詞 4-6 | -病，-點，-種，-式 -會，-觀，-製 | | | | | | | | | | | | | | |
| 位置名詞 5-1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 時間名詞 5-2 | -期，-日，-日날，-月 -月달 | | | | | | | | | | | | | | |
| 数量名詞 5-3 | -分 （種々の名数詞） | | | | | | | | | | | | | | |
| 物質名詞 5-4 | -劑，-油，-水，-體 -物，-分，-酸，-물 | | | | | | | | | | | | | | |
| 抽象名詞 5-5 | -感，-權，-級，-別 -史，-上，-性，-用 | | | | | | | | | | | | | | |
| 性質名詞 5-6 | 不- | | | | | | | | | | | | | | |
| 活動名詞 5-7 | -질，-視，-化 | | | | | | | | | | | | | | |
| 営為名詞 5-8 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 形容名詞 5-10 | -的 | | | | | | | | | | | | | | |

7）材料を表わす。　8）番号は本稿の章-節を示す。

は即ち，単語が意味として実現するまさにその実現のしかたの解明へと接近することにほかならない。

名詞分類はまた，これまでも見たように，造語の観点においても様々な特徴的傾向を持つことがわかる。更に，語彙的な意味の観察における名詞分類の意義は言うまでもないし，自然言語の機械処理にも有効である。

理想的な辞書においては名詞の class が記述されるべきであろう。名詞分類は，朝鮮語の文法研究に寄与するものが大きいばかりでなく，朝鮮語の語彙論の構築への水路ともなるのである。

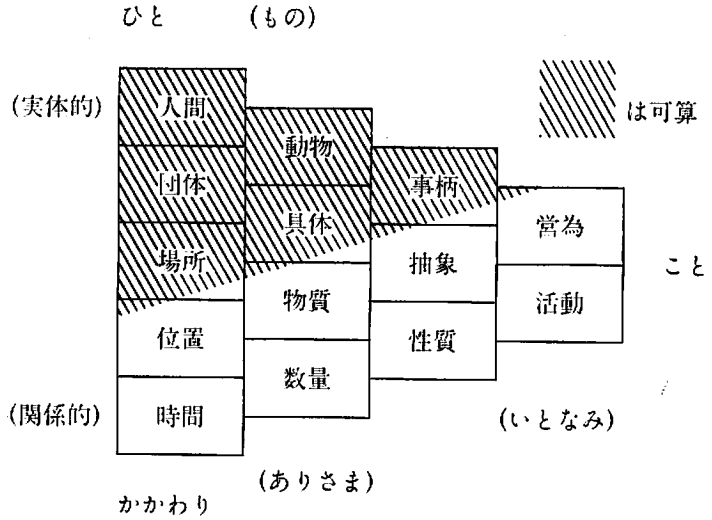
なお，本稿でこれまで例にあげた名詞の総数は652，接尾辞の総数は97である。これとは別に，本稿の末尾に가나다順の語彙目録を付す。語彙目録にあげた単語は，菅野裕臣他『コスモス朝和辞典』(1988) の最重要語に選定されている名詞395語である。本文で言及したものと重複するものも含まれている。分類は煩瑣にならぬ程度に，最も確率の高いと思われるものを示してあるが，個々の名詞について，多くの用例をもとにした更なる検討が必要である。

さて，現代語において一つ一つの単語の実際の性質を明らかにするためには言語資料の質はもちろんのこと，<量>が重要である。ある程度の量の言語事実の観察によって初めて，例えば確率の記述など，言語事実のよりリアルな記述も可能となる。少なくとも百万単位の文を擁する朝鮮語の言語資料（コーパス）を自由にすることができるようになれば，Lexikon という暗箱で眠っていた語彙は，更に現実味のある精緻な形で，言語学者たちの目の前に現れるであろう。

### 6—3　<ひと-こと-かかわり>の三角形

以上述べてきた名詞の class は次頁のような<ひと-こと-かかわり>を頂点とする三角形をなして分布している。

名詞のこうした分布は，世界を語彙によってどのように分節しているかという，言語による世界認識の方法の一つであると同時に，言語的世界をどのような語彙によって織り出すかという世界表出の一方法でもある。語彙のこうしたありかたは，もちろん言語ごとに様相を異にしていると考え




られるけれども，研究が進めば，あらゆる言語のうちに何らかの共通した類型を，あるいは何らかの普遍的なるものまでをも認めうるかもしれないという予感を抱かせてくれるのである。

## 註

(1) 何が単語で何が単語でないかという，単語の認定の問題は重要な問題であり，単語という概念それ自体が相当に問題となる言語も多々あるけれども，もとより本稿はそのことを論ずる場ではない。

(2) このことについては『言語学大辞典』(1988) の河野六郎による「刊行の辞」，および河野六郎 (1980) p.94も参照のこと。なお，本節を中心として，とりわけ第1章については河野六郎先生に真に貴重な示唆を頂載した。

(3) 河野六郎先生はこうした<場>を<言語場>と呼んでおられた。

(4) そもそも非文と言われるもののうちには様々な種類のものがあるにもかかわらず，それらを非文と名づけて一様に処理してしまうとするならば，そのこと自体にまず問題があろう。

(5) 範疇と分類の問題に関しては野間秀樹 (1988) pp.9-15，pp.51-53，および野間秀樹 (1990) p.27，p.30，p.34，pp.60-61 参照。

(6) 意味素性という考え方は特に韓国でしばしば援用されている。

(7) この規定およびその他の品詞分類はおおむね菅野裕臣 (1988) による。

(8) 菅野裕臣 (1988) p.1009および鈴木重幸 (1972) pp.185-187 参照。構文論・形態論の考え方については奥田靖雄 (1985) pp.21-29，日本語の連語論については

奥田靖雄（1985）pp.67-84および言語学研究会（1983）参照。

(9) それぞれの単語群に付した名称はとりあえずのものであって，その単語群の性質をよく表しているような名称であれば変更するのにやぶさかではない。重要なのは分類に付した術語ではなく，分類の現実性である。広義には朝鮮語の代名詞を名詞の一部と考えることも可能であろう。

なお，本稿の名詞分類，とりわけ可算名詞の分類については，ほぼ唯一の先行研究とも言うべき菅野裕臣（1987）に負うところが大きい。同稿は，未公刊ながら，語尾や名数詞による朝鮮語の名詞分類を試みた点で画期的である。参考までにそこに示された表を転載する：

<table>
<tr><td>소</td><td rowspan="6">可算名詞</td><td rowspan="9">生き物名詞</td><td colspan="4">非人間名詞</td><td>動物名詞</td></tr>
<tr><td>사람</td><td rowspan="2">人間名詞</td><td rowspan="4">非固有名詞</td><td rowspan="2">個体名詞</td><td>非尊敬名詞</td><td rowspan="2">人間名詞</td></tr>
<tr><td>분</td><td>尊敬名詞</td></tr>
<tr><td>대중</td><td colspan="2">集合名詞</td><td>集合名詞</td></tr>
<tr><td>이순신</td><td rowspan="2">不可算名詞</td><td colspan="3">固有名詞</td><td rowspan="2">固有名詞</td></tr>
<tr><td>한국</td><td colspan="4" rowspan="4">非生き物名詞</td></tr>
<tr><td>책</td><td rowspan="2">可算名詞</td><td rowspan="2">具象名詞</td></tr>
<tr><td>개념</td><td rowspan="2">抽象名詞</td></tr>
<tr><td>물</td><td>不可算名詞</td><td>不可算名詞</td></tr>
</table>

また菅野裕臣（1987）は，この他に語尾などの特徴に基づき20種に及ぶ名詞を提起している。本稿における団体名詞・場所名詞・時間名詞・位置名詞はおおむねこれにならうものである。それと並んで，助数詞（即ちここでいう名数詞）によって，그루で数えられる「樹木名詞」，벌で数えられる「衣服名詞」，켤레で数えられる「履物名詞」等，12種の名詞を提起している。ただいずれの場合も，名詞を分類するというよりは，名詞の中から一つの基準に基づいて特徴的な性質を持つ一群を取り出すという提起のしかたである。また，本稿で明らかにした造語接尾辞と名詞分類との関連，および後述の対応する疑問詞と名詞分類の関連については全く触れられていない。方法論的にも，様々な条件を総合して分類するという本稿の方法とは全く異なった発想のものだと言ってよい。なお，菅野裕臣先生には直接に多くの貴重なご教示を賜った。名詞分類については Холодович（1954）pp.45-72も参考になった。

(10) -들にはこれがついた名詞を複数にする接尾辞の他に，聞き手や対象などが複数であることを示す語尾があるので区別しなければならない。次のような-들は本稿で問題にしている接尾辞の-들ではない。菅野裕臣他（1988）p. 262 参照：

어서들 가세요.（みなさん）さようなら。
그렇다고들 해요.（多くの人たちが）そうだと言っています。
물들을 먹고 있었어요.（多くの人たちが）水を飲んでいました。
교과서들을 보고 있었어요.（多くの人たちが）教科書を見ていました。

(11) 不十分ながら，菅野裕臣他（1988）『コスモス朝和辞典』においては，名詞の見出語のもとにその名詞がどのような名数詞をとるかが記述されている。

(12) Холодович（1954）p.50参照。

(13) 次のようにいわゆる擬人法の場合は구름（雲）や바람（風）なども-에게をとりうる。これらもまた極めて自然な朝鮮語であるけれども，第1章で述べたように，こうした名詞を一々活動体の人間名詞として述べないのは結局は確率の問題なのである。

그래서 그 부모는 구름에게 가서 "……略"라고 했다. 구름 역시 매우 고마워하면서 말하기를 "……略"라고 했다. 그 부모는 이번에는 바람에게 가서 찾아온 사연을 말했다. <온진 미륵과 쥐>

そこでその父母は雲のところへ行き「……」と言った。雲もやはりとてもよろこんで言うには「……」とのことだった。その父母は今度は風のところへ行って訪ねたわけを語った。

(14) この-더러は後ろに하다（言う）・그러다（言う）などの言語活動を表す動詞を伴うので「動物名詞は<-더러＋言語活動の動詞>にはつかない」と考えてもよい。

(15) 用例の出典は<　>に入れて，<著者名／作品名>の形式で示す。作品名の後ろの数字は巻数を示す。<　>のないものは作例である。用例の日本語訳はすべて引用者の手になるものである。日本語訳は一部省略することがある。用例の頭に付した4桁の番号は，例えば，5206）とあれば，5－2の6番めの用例であることを示す。引用した文献は1970年代以降に韓国で出版されたものがほとんどである。

(16) 家族の成員を表すこの식구（家族）は-들がつくと成員の複数を示すのに対し，家族全体を表す가족（家族）は-들がつくと通常は複数の家族集団を示し，4203）のように稀に一家族内の成員の複数を示す。なお，これと関連して，菅野裕臣（1987）は，대중（大衆）のような名詞を「集合名詞」とし，「個体をあらわしうる」사람（人）のような「個体名詞」に対立させ，集合名詞に-들がついても「成員の多数性を強調するに過ぎ」ないと述べている。この観点からすれば가족などは個体名詞的でもあり，集合名詞的でもある名詞であろう。

(17) -답다が人間名詞以外につくのは호랑이답다（虎らしい）など若干の動物名詞の場合と，참답다（真実だ）ぐらいである。

(18) 主体の意志によって制御することのできる動作を表す動詞を意志動詞という。鈴木重幸（1972）pp.318-319参照。命令形・勧誘形になりうる。これに対するものを無意志動詞という。同じ動詞が意志動詞・無意志動詞のいずれにもなること

がある。野間秀樹（1988）pp.26-28参照。

(19) 梅田博之先生のご教示による。

(20) 田窪行則（1982）pp.92-93参照。なお，同論文は日本語を中心に扱ったものであるが朝鮮語の場所名詞についての言及もなされている。同論文は油谷幸利先生のご教示により知ったものである。

(21) 名数詞개（～個）は非常に生産的で，단어（単語）などにも用いられたり，具体名詞のみならず，名数詞の選択に困るような場合にとりあえず-개ですますこともしばしば許容されるようである：

일층 양품부에서 여자 스카프 두 개를 샀다. 한 개는 정혜에게 주고 한 개는 가방에 넣었다. <金異然／독신녀 아파트>

一階の洋品売り場で女物のスカーフ二枚を買った。一枚はチョンヘにくれ，一枚は鞄にいれた。

신촌은 참으로 묘한 곳이다. 가지각색의 사람들이 모여 있다. 대학도 많다. 종합대학이 네 개나 된다. <마광수／나는 야한 여자가 좋다>

新村は本当に妙な所だ。いろんな人々が集まっている。大学も多い。総合大学が四つもある。

나의 목숨 안에 와 닿는 한 개의 별빛<申瞳集／목숨>

私の命の中に届く一つの星あかり

上のように，스카프（スカーフ）や종합대학（総合大学），별빛（星の光）などのようなものにまで개が適用されており，日本語の「個」よりもはるかに幅広く用いられることがわかる。

(22) 하나，둘……のごとく数詞のみを用いる数え方は，「사람 둘을 구해 주세요」（人を二人探してください）のように，具体名詞であるかどうかを問わず，生産的である。ただし，「빵 하나 사다 주세요」（パンを一つ買って来てください）は自然なのに「빵 둘 사다 주세요」はやや不自然となるごとく，하나（ひとつ）を用いるのは自然であっても둘（二つ）以上になると不自然になるものもある。회사 하나（会社一つ）・별 하나（星一つ）などもこの類である。

(23) 名数詞は基本的にはものの形態的特徴によっているわけである。また，담배 한 갑（たばこ一箱），담배 한 개피（たばこ一本），담배 오백 그램（たばこ500グラム）……と数えてゆくと，同じ담배という名詞でも名数詞などとの組み合わせによって담배というもののとらえ方，即ち담배という単語の意味が異なって実現することがわかる。

なお，名数詞は単位を表す名詞や数量名詞，その他の名詞と連なって存在している：

야채 샌드위치와 우유 한 잔, 그리고 커피 한 잔 주십시오. <金異然／독신녀 아파트>

野菜サンドイッチとミルク一杯，それとコーヒー一杯ください。

上の잔は「杯」の意の具体名詞としても用いられる。

名数詞にはものごとの回数などを表す，바둑（碁）の한 수や일국，식사（食事）の한 끼，번（度）などもある：

바둑 한 판 둡시다.

碁を一局やりましょう。

한 수만 물러 줘.

一手だけみのがしてくれ。

輿水優（1985）は中国語の量詞を事物の量をはかる「名量詞」と動作の量をはかる「動量詞」とに分けているが，朝鮮語の번（度）などはいわば後者に該当するものであろう。同書の第2章・第3章は名数詞に関してのみならず名詞分類についても示唆してくれるところ大である。

(24) 菅野裕臣（1987）は先に示した表でわかる通り，可算名詞のうち개념など，この種のものを「抽象名詞」と呼んでいるけれども，抽象名詞は不可算であるというのが我々の常識にかなっていよう。本稿では事柄名詞と呼んだゆえんである。

(25) 時間的な起点ではなく，順序を表す次のような-부터は，ほぼどのような名詞にもつきうるので時間名詞を特定する基準にはならない：

제일 먼저 그 얘기부터 하자.

まず最初にその話からしよう。

(26) 鈴木重幸（1972）pp.198-201参照。

(27) 「何々のうちの一つである」などというときのように，<あるものごとのうちの一つ>もしくは<一種類>という意味の하나は둘・셋……という具合には用いられないようである。

(28) あるいはまた，名数詞的にも用いられ，かつ自立的にも用いられる一連の名詞群を一つのグループとしてとりたてることも可能である。そうすると원（ウオン）のような抽象名詞のほかに，그릇（器）・잔（杯）・상자（箱）などの具体名詞，시간（時間）のような時間名詞，사람（人）などの人間名詞等々，多方面にまたがるグループとなる。これらはいわば計量用法を持った名詞群なのである。

(29) なお，いずれの場合にも格語尾-를／-을は落としうる。

(30) 水谷静夫他（1983）に付された「日本語用言の結合価」の試みは朝鮮語を考えるうえでも参考になる。同書pp.81-134の石綿敏雄・荻野孝野論文も参照のこと。

(31) 朝鮮語の名詞の calss を考えるにあたっては，近年，参考文献にあげたようないくつかの類語辞典・逆順辞典の試みがあって参考になる。なお，本稿の第2章以降は，1988年3月12日の朝鮮語研究会の合宿，および1989年10月8日の朝鮮学会において発表した内容を基礎にしている。これまで言及した方々の他にも志部昭平・任洪彬・朴良圭・徐尚揆・呉承信・姜炫和といった多く方々のご教示を得た。妻・権在淑の助言にもあわせて心から感謝したい。

## 参 考 文 献

石綿敏雄・荻野孝野（1983）“結合価から見た日本文法”「文法と意味Ⅰ」朝倉日本語新講座3　朝倉書店
梅田博之（1976）「韓国語Ⅰ・Ⅱ」東京三中堂
大阪外国語大学朝鮮語研究室・編（1986）「朝鮮語大辞典」角川書店
奥田靖雄（1985）「ことばの研究・序説」むぎ書房
菅野裕臣（1981）「朝鮮語の入門」白水社
菅野裕臣（1987）東京外国語大学講義資料（未公刊）
菅野裕臣（1988）“文法概説”「コスモス朝和辞典」白水社
菅野裕臣・早川嘉春・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人・共編，金周源・徐尚揆・浜之上幸・協力（1988）「コスモス朝和辞典」白水社
亀井孝・河野六郎・千野栄一・編著（1988）“刊行の辞”「言語学大辞典 第1巻 世界言語編（上）」三省堂
言語学研究会・編（1983）「日本語文法・連語論（資料編）」むぎ書房
河野六郎（1980）「河野六郎著作集3」平凡社
興水優（1985）「中国語の語法の話——中国語文法概論」光生館
鈴木重幸（1972）「日本語文法・形態論」むぎ書房
田窪行則（1982）“現代日本語の場所を表わす名詞類について”「日本語・日本文化」12　大阪外国語大学研究留学生別科
野間秀樹（1988）“＜하겠다＞の研究——現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって”「朝鮮学報」129　朝鮮学会
野間秀樹（1990）“＜할것이다＞の研究——再び現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって”「朝鮮学報」134　朝鮮学会
水谷静夫・石綿敏雄・荻野孝野・賀来直子・草薙裕（1983）「文法と意味Ⅰ」朝倉日本語新講座3　朝倉書店
油谷幸利（1978）“現代韓国語の動詞分類”「朝鮮学報」87　朝鮮学会
공업출판사；학우서방（1979；1985）「우리말 어휘 및 표현」
金光海・編（1987）「類意語・反意語辭典」한샘
南永信・역음（1987）「우리말 분류사전」한강문화사
박용수・역음（1989）「우리말 갈래사전」한길사
유재원・역음（1985）「우리말 역순사전」정음사
Холодович, А.А. (1954) “Очерк грамматики корейского языка” Москва

## 「コスモス朝和辞典」最重要語完全名詞の分類例

＊（　）は下位範疇で示したもの

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 가게 | 店。 | 場所 |
| 2 | 가로 | 横。 | 抽象 |
| 3 | 가방 | かばん。 | 具体 |
| 4 | 가슴 | 胸。 | （身体） |
| 5 | 가운데 | 中。間。 | 位置 |
| 6 | 가을 | 秋。 | 時間 |
| 7 | 가족 | 家族。 | 人間 |
| 8 | 가지 | 枝。 | 具体　場所 |
| 9 | 간장 | 醤油。 | 物質 |
| 10 | 감기 | 風邪。 | 抽象 |
| 11 | 감자 | じゃがいも。 | 具体 |
| 12 | 값 | 値段。 | 抽象 |
| 13 | 강 | 河。 | 場所 |
| 14 | 개 | 犬。 | 動物 |
| 15 | 거리 | 通り。町。 | 場所 |
| 16 | 거울 | 鏡。 | 具体 |
| 17 | 거짓 | 嘘。偽り。 | 抽象 |
| 18 | 걱정 | 心配。 | 事柄　活動 |
| 19 | 건강 | 健康。 | 性質 |
| 20 | 겉 | おもて。うわべ。 | 位置 |
| 21 | 겨레 | はらから。同胞。 | 人間 |
| 22 | 겨울 | 冬。 | 時間 |
| 23 | 결정 | 決定。 | 活動 |
| 24 | 경찰 | 警察。 | 団体 |
| 25 | 경치 | 景色。 | 抽象 |
| 26 | 계속 | 続き。継続。 | 活動 |
| 27 | 고기 | 肉。魚。 | 物質　動物 |
| 28 | 고생 | 苦労。 | 事柄　活動 |
| 29 | 고양이 | 猫。 | 動物 |
| 30 | 고추 | 唐辛子。 | 物質 |
| 31 | 고향 | 故郷。 | 場所 |
| 32 | 곰 | 熊。 | 動物 |
| 33 | 곳 | 所。 | 場所 |
| 34 | 공부 | 勉強。 | 活動 |
| 35 | 공업 | 工業。 | 抽象 |
| 36 | 과자 | 菓子。 | 具体 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 37 | 과학 | 科学。 | 抽象 |
| 38 | 관계 | 関係。 | 事柄 |
| 39 | 교과서 | 教科書。 | 具体 |
| 40 | 교수 | 教授。 | 人間 |
| 41 | 교실 | 教室。 | 場所 |
| 42 | 교통 | 交通。 | 抽象 |
| 43 | 구경 | 見物。 | 営為 |
| 44 | 구두 | 靴。 | 具体 |
| 45 | 구름 | 雲。 | （現象） |
| 46 | 국가 | 国家。 | 団体 |
| 47 | 국제 | 国際。 | 抽象 |
| 48 | 귀 | 耳。 | （身体） |
| 49 | 그릇 | 器。 | 具体 |
| 50 | 그저께 | おととい。 | 時間 |
| 51 | 극장 | 映画館。劇場。 | 場所 |
| 52 | 글 | 文章。文字。 | 具体 |
| 53 | 기둥 | 柱。 | 具体 |
| 54 | 기름 | 油。 | 物質 |
| 55 | 기본 | 基本。 | 抽象 |
| 56 | 기술 | 技術。 | 事柄　抽象 |
| 57 | 기차 | 汽車。 | 具体　場所 |
| 58 | 기후 | 気候。 | 抽象 |
| 59 | 길 | 道。 | 場所 |
| 60 | 꼬리 | しっぽ。 | （身体） |
| 61 | 꽃 | 花。 | 具体 |
| 62 | 꿩 | 雉。 | 動物 |
| 63 | 끝 | 終わり。端。 | 位置 |
| 64 | 나라 | 国。 | 団体　場所 |
| 65 | 나무 | 木。 | 具体　場所 |
| 66 | 나비 | 蝶。 | 動物 |
| 67 | 나이 | 年（とし）。 | 抽象 |
| 68 | 나중 | 後（あと）。 | 抽象 |
| 69 | 날 | 日。 | 時間 |
| 70 | 날씨 | 天気。 | 抽象 |
| 71 | 남 | 他人。 | 人間 |
| 72 | 남자 | 男。 | 人間 |
| 73 | 남쪽 | 南。 | 場所 |
| 74 | 남편 | 夫。 | 人間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 75 | 낫 | 鎌。 | 具体 |
| 76 | 낮 | 昼。 | 時間 |
| 77 | 내년 | 来年。 | 時間 |
| 78 | 내일 | 明日。 | 時間 |
| 79 | 냄새 | 匂い。 | （現象） |
| 80 | 노래 | 歌。 | 事柄 |
| 81 | 노인 | 老人。 | 人間 |
| 82 | 논 | 田。 | 場所 |
| 83 | 농사 | 農事。百姓仕事。 | 活動 |
| 84 | 누나 | （弟から見た）姉。 | （親族）人間 |
| 85 | 눈 | 眼。 | （身体） |
| 86 | 눈 | 雪。 | （現象）物質 |
| 87 | 다리 | 橋。 | 場所　具体 |
| 88 | 다리 | 脚。 | （身体） |
| 89 | 다방 | 喫茶店。 | 場所 |
| 90 | 다음 | 次。 | 時間 |
| 91 | 달 | 月。 | 具体　場所 |
| 92 | 닭 | 鶏。 | 動物 |
| 93 | 담배 | 煙草。 | 具体　物質 |
| 94 | 대답 | 答え。返事。 | 事柄　活動 |
| 95 | 대접 | もてなし。 | 活動 |
| 96 | 대표 | 代表。 | 人間　活動 |
| 97 | 대학 | 大学。学部。 | 団体　場所 |
| 98 | 댁 | お宅。 | 場所 |
| 99 | 도시 | 都市。 | 場所 |
| 100 | 독립 | 独立。 | 活動 |
| 101 | 돈 | 金（かね）。 | 抽象 |
| 102 | 돌 | 石。 | 具体　物質 |
| 103 | 동생 | 弟。妹。 | （親族） |
| 104 | 동안 | 間。 | 不完全名詞* |

（「コスモス朝和辞典」では完全名詞であるが、ここでは不完全名詞と考える）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 105 | 동양 | 東洋。 | 場所 |
| 106 | 동쪽 | 東。 | 場所 |
| 107 | 돼지 | 豚。 | 動物 |
| 108 | 뒤 | 後ろ。後。 | 位置 |
| 109 | 들 | 野。野原。 | 場所 |
| 110 | 등 | 背中。背。 | （身体） |
| 111 | 딸 | 娘。 | （親族） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 112 | 땀 | 汗。 | （現象） |
| 113 | 땅 | 土地。地。 | 場所 |
| 114 | 때 | 時。 | 時間 |
| 115 | 떡 | 餅。餅菓子。 | 具体 |
| 116 | 뜻 | 意志。志。意味。意義。 | 抽象　活動 |
| 117 | 라디오 | ラジオ。 | 具体 |
| 118 | 마당 | 庭。広場。場。 | 場所 |
| 119 | 마루 | マル（板の間）。 | 場所 |
| 120 | 마음 | 心。 | （身体）抽象 |
| 121 | 마지막 | 最後。おしまい。 | 抽象 |
| 122 | 말 | 馬。 | 動物 |
| 123 | 말 | 言葉。話。 | 事柄　活動 |
| 124 | 맛 | 味。味わい。 | 抽象 |
| 125 | 머리 | 頭。髪。 | （身体） |
| 126 | 멋 | （物事の）味。味わい。趣。 | 抽象 |
| 127 | 며칠 | 何日。 | 時間 |
| 128 | 모두 | 皆。みんな。 | 人間　抽象 |
| 129 | 모래 | 砂。 | 物質 |
| 130 | 모레 | あさって。 | 時間 |
| 131 | 모습 | 姿。 | 事柄 |
| 132 | 모양 | 形。様子。 | 抽象 |
| 133 | 모자 | 帽子。 | 具体 |
| 134 | 목 | 首。のど。 | （身体） |
| 135 | 몸 | 体。身（み）。 | （身体） |
| 136 | 못 | 釘。 | 具体 |
| 137 | 무릎 | 膝。 | （身体） |
| 138 | 무리 | 無理。 | 活動 |
| 139 | 문 | ドア。門。戸。 | 場所　具体 |
| 140 | 문제 | 問題。 | 事柄 |
| 141 | 문화 | 文化。 | 抽象　事柄 |
| 142 | 물 | 水。お湯。 | 物質 |
| 143 | 물건 | 品物。物。 | 具体 |
| 144 | 물결 | 波。 | （現象） |
| 145 | 민족 | 民族。 | 事柄 |
| 146 | 민주 | 民主。 | 抽象 |
| 147 | 밑 | 真下。下。底。 | 位置 |
| 148 | 바늘 | 針。 | 具体 |
| 149 | 바다 | 海。 | 場所 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 150 | 바람 | 風。 | （現象） |
| 151 | 바위 | 岩。 | 具体　物質 |
| 152 | 바지 | ズボン。パジ。 | 具体 |
| 153 | 밖 | 外（そと）。ほか。以外。 | 位置 |
| 154 | 반 | 半分。（時刻の）半。 | 抽象　時間 |
| 155 | 반대 | 反対。 | 活動 |
| 156 | 반찬 | おかず。 | 具体 |
| 157 | 발 | 足。 | （身体） |
| 158 | 발달 | 発達。 | 活動 |
| 159 | 발전 | 発展。 | 活動 |
| 160 | 밤 | 夜。 | 時間 |
| 161 | 밥 | 御飯。飯。 | 活動　物質 |
| 162 | 방 | 部屋。 | 場所 |
| 163 | 방법 | 方法。 | 事柄 |
| 164 | 밭 | 畑。 | 場所 |
| 165 | 배 | 腹。おなか。 | （身体） |
| 166 | 배 | 倍。 | 抽象 |
| 167 | 배 | 船。 | 具体　場所 |
| 168 | 뱀 | 蛇。 | 動物 |
| 169 | 버스 | バス。 | 具体　場所 |
| 170 | 벌 | 蜂。 | 動物 |
| 171 | 벌레 | 虫。 | 動物 |
| 172 | 별 | 星。 | 具体 |
| 173 | 병 | 瓶。 | 具体 |
| 174 | 병 | 病気。病。 | 抽象　事柄 |
| 175 | 보리 | 麦。 | 物体　具体 |
| 176 | 보통 | 普通。 | 抽象 |
| 177 | 봄 | 春。 | 時間 |
| 178 | 봉투 | 封筒。 | 具体 |
| 179 | 부엌 | 台所。 | 場所 |
| 180 | 부자 | 金持ち。 | 人間 |
| 181 | 부탁 | 頼み。依頼。 | 活動　事柄 |
| 182 | 북쪽 | 北。 | 場所 |
| 183 | 불 | 火。明かり。 | （現象） |
| 184 | 비 | 雨。 | （現象） |
| 185 | 비누 | 石鹸。 | 具体　物質 |
| 186 | 비둘기 | 鳩。 | 動物 |
| 187 | 비행기 | 飛行機。 | 具体　場所 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 188 | 빗 | 櫛。 | 具体 |
| 189 | 빛 | 光。 | （現象） |
| 190 | 빵 | パン。 | 具体　物質 |
| 191 | 뼈 | 骨。 | （身体） |
| 192 | 뿌리 | 根。 | 具体　物質 |
| 193 | 사람 | 人。 | 人間 |
| 194 | 사랑 | 愛。恋。 | 事柄　活動 |
| 195 | 사슴 | 鹿。 | 動物 |
| 196 | 사실 | 事実。実際。 | 事柄 |
| 197 | 사용 | 使用。 | 活動 |
| 198 | 사이 | 間。仲。間柄。 | 抽象　時間 |
| 199 | 사진 | 写真。 | 具体 |
| 200 | 사회 | 社会。 | 抽象　位置 |
| 201 | 산 | 山。 | 場所 |
| 202 | 상자 | 箱。 | 具体 |
| 203 | 상처 | 傷。傷口。 | 具体（身体） |
| 204 | 새 | 鳥。 | 動物 |
| 205 | 새끼 | （動物の）子。 | 動物　人間 |
| 206 | 새벽 | 夜明け。 | 時間 |
| 207 | 색 | 色。 | 抽象 |
| 208 | 생각 | 考え。気持ち。欲しい気持ち。 | 事柄　活動 |
| 209 | 생활 | 生活。 | 活動 |
| 210 | 서로／서루 | 互い。 | 人間 |
| 211 | 서울 | ソウル。都。 | 場所 |
| 212 | 서쪽 | 西。 | 場所 |
| 213 | 선생 | 先生。 | 人間 |
| 214 | 설명 | 説明。 | 活動　事柄 |
| 215 | 설탕 | 砂糖。 | 物質 |
| 216 | 섬 | 島。 | 場所 |
| 217 | 성냥 | マッチ。 | 具体 |
| 218 | 세계 | 世界。 | 場所　抽象 |
| 219 | 세로 | 縦。 | 抽象 |
| 220 | 세상 | 世の中。世間。 | 抽象　場所 |
| 221 | 세수 | 洗顔。 | 活動 |
| 222 | 셈 | 勘定。計算。つもり。 | 活動　抽象 |
| 223 | 소 | 牛。 | 動物 |
| 224 | 소금 | 塩。 | 物質 |
| 225 | 소나무 | 松。 | 具体 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 226 | 소리 | 音。声。話。 | （現象） |
| 227 | 소설 | 小説。 | 具体 |
| 228 | 속 | 奥。中。内。気持ち。腹。 | 位置 |
| 229 | 손 | 手。 | （身体） |
| 230 | 손님 | お客様。…様。 | 人間 |
| 231 | 손자 | 孫息子。 | （親族） |
| 232 | 솜씨 | 腕前。手際。 | 抽象 |
| 233 | 수 | 手段。手だて。方法。 | 抽象 |
| 234 | 숟가락 | 匙。スプーン。 | 具体 |
| 235 | 술 | 酒。 | 物質　活動 |
| 236 | 숨 | 息。 | （現象） |
| 237 | 숲 | 林。森。 | 場所 |
| 238 | 시간 | 時間。 | 抽象 |
| 239 | 시골 | 田舎。 | 場所 |
| 240 | 시월 | 十月。 | 時間 |
| 241 | 시작 | 始め。 | 活動　時間 |
| 242 | 시장 | 市場。 | 場所 |
| 243 | 식구 | 家族。 | 人間 |
| 244 | 식당 | 食堂。 | 場所 |
| 245 | 식사 | 食事。 | 活動 |
| 246 | 신 | 履物。靴。 | 具体 |
| 247 | 신문 | 新聞。 | 具体 |
| 248 | 실 | 糸。 | 具体　物質 |
| 249 | 쌀 | 米。 | 物質 |
| 250 | 씨 | 種。 | 具体 |
| 251 | 아들 | 息子。 | （親族） |
| 252 | 아래 | 下。 | 位置 |
| 253 | 아버지 | お父さん。父。 | （親族） |
| 254 | 아저씨 | おじさん。 | 人間（親族） |
| 255 | 아주머니 | おばさん。 | 人間（親族） |
| 256 | 아침 | 朝、朝御飯。 | 時間 |
| 257 | 안 | 内。中。 | 位置 |
| 258 | 안전 | 安全。 | 性質 |
| 259 | 앞 | 前。先。 | 位置 |
| 260 | 약 | 薬。電池。 | 物質　抽象 |
| 261 | 양말 | 靴下。 | 具体 |
| 262 | 어깨 | 肩。 | （身体） |
| 263 | 어머니 | お母さん。母。 | （親族） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 264 | 어제 | きのう。昨日。 | 時間 |
| 265 | 언니 | （妹から見た）姉さん。 | （親族） |
| 266 | 얼굴 | 顔。 | （身体） |
| 267 | 여름 | 夏。 | 時間 |
| 268 | 여자 | 女。女の人。 | 人間 |
| 269 | 여행 | 旅行。 | 営為 |
| 270 | 역 | 駅。 | 場所 |
| 271 | 역사 | 歴史。 | 抽象 |
| 272 | 연구 | 研究。 | 活動　事柄 |
| 273 | 연기 | 煙。 | （現象） |
| 274 | 연탄 | 練炭。 | 物質 |
| 275 | 연필 | 鉛筆。 | 具体 |
| 276 | 열매 | 実。 | 具体 |
| 277 | 열심 | 熱心。 | 抽象 |
| 278 | 영화 | 映画。 | 事柄　具体　営為 |
| 279 | 옆 | 横。そば。隣。 | 位置 |
| 280 | 오늘 | 今日（きょう）。 | 時間 |
| 281 | 오른쪽 | 右。右側。 | 場所　位置 |
| 282 | 오빠 | （妹から見た）兄。兄さん。 | （親族） |
| 283 | 오전 | 午前。 | 時間 |
| 284 | 오후 | 午後。 | 時間 |
| 285 | 올해 | 今年。 | 時間 |
| 286 | 옷 | 服。 | 具体 |
| 287 | 외국 | 外国。 | 場所 |
| 288 | 왼쪽 | 左。左側。 | 場所　位置 |
| 289 | 요새 | 近頃。このごろ。 | 時間 |
| 290 | 요즈음 | このごろ。 | 時間 |
| 291 | 우유 | 牛乳。ミルク。 | 物質 |
| 292 | 우표 | 切手。 | 具体 |
| 293 | 원 | ウォン。 | 抽象 |
| 294 | 위 | 上。 | 位置 |
| 295 | 위원 | 委員。 | 人間 |
| 296 | 위험 | 危険。 | 性質 |
| 297 | 유리 | ガラス。 | 物質 |
| 298 | 음악 | 音楽。 | 事柄 |
| 299 | 의미 | 意味。 | 抽象 |
| 300 | 의사 | 医者。 | 人間 |
| 301 | 의자 | 椅子。 | 具体 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 302 | 이 | 歯。 | （身体） |
| 303 | 이름 | 名前。名。 | 事柄 |
| 304 | 이마 | 額。おでこ。 | （身体） |
| 305 | 이야기 | 話。物語。 | 事柄　活動 |
| 306 | 이웃 | 隣。 | 人間　場所 |
| 307 | 이제 | 今。 | 時間 |
| 308 | 인사 | 挨拶。 | 営為 |
| 309 | 일 | 仕事。事。 | 活動　事柄 |
| 310 | 일본 | 日本。 | 場所　団体 |
| 311 | 일요일 | 日曜日。 | 時間 |
| 312 | 입 | 口。 | 時間 |
| 313 | 잎 | 葉。 | 具体 |
| 314 | 자동차 | 自動車。 | 具体　場所 |
| 315 | 자랑 | 誇り。自慢。 | 具体 |
| 316 | 자리 | 席。場所。跡。地位。 | 場所 |
| 317 | 자유 | 自由。 | 抽象 |
| 318 | 작년 | 昨年。去年。 | 時間 |
| 319 | 잘못 | 誤り。間違い。 | 活動　事柄 |
| 320 | 잡지 | 雑誌。 | 具体 |
| 321 | 장마 | 梅雨。長雨。 | （現象） |
| 322 | 저고리 | チョゴリ（民族服の上衣）。 | 具体 |
| 323 | 저녁 | 夕方。夕食。 | 時間 |
| 324 | 전 | 前。以前。 | 時間 |
| 325 | 전기 | 電気。明かり。 | 抽象 |
| 326 | 전쟁 | 戦争。 | 活動　事柄 |
| 327 | 전화 | 電話。 | 活動　具体 |
| 328 | 절 | 寺。 | 場所 |
| 329 | 점 | 点。ほくろ。 | 具体 |
| 330 | 점심 | 昼飯。昼御飯。 | 抽象　活動 |
| 331 | 젓가락 | 箸。 | 具体 |
| 332 | 정도 | 程度。くらい。程。 | 抽象 |
| 333 | 정신 | 精神。気。 | 抽象 |
| 334 | 제도 | 制度。 | 事柄 |
| 335 | 제비 | つばめ。 | 動物 |
| 336 | 제일 | 第一。一番。 | 抽象　数量 |
| 337 | 조사 | 調査。 | 活動 |
| 338 | 조선 | 朝鮮。 | 場所　団体 |
| 339 | 조심 | 用心。 | 活動 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 340 | 조카 | おい。めい。 | （親族） |
| 341 | 존경 | 尊敬。 | 活動 |
| 342 | 종이 | 紙。 | 具体　物質 |
| 343 | 주의 | 注意。 | 活動 |
| 344 | 주인 | 主人。 | 人間 |
| 345 | 준비 | 準備。 | 活動 |
| 346 | 중국 | 中国。 | 場所　団体 |
| 347 | 중심 | 中心。 | 場所 |
| 348 | 지금 | 今。 | 時間 |
| 349 | 지도 | 地図。 | 具体 |
| 350 | 지리 | 地理。 | 抽象 |
| 351 | 지붕 | 屋根。 | 具体　場所 |
| 352 | 진지 | お食事。 | 抽象　活動 |
| 353 | 집 | 家。店。巣。 | 場所　具体 |
| 354 | 차 | 茶。 | 物質 |
| 355 | 차 | 車。 | 具体 |
| 356 | 차례 | 順番。目次。 | 抽象 |
| 357 | 창 | 窓。 | 具体 |
| 358 | 책 | 本。 | 具体 |
| 359 | 처녀 | 乙女。娘。処女。 | 人間 |
| 360 | 처음 | 初め。 | 時間 |
| 361 | 치마 | チマ。スカート。 | 具体 |
| 362 | 친구 | 友達。友人。 | 人間 |
| 363 | 칼 | 刃物。ナイフ。刀。 | 具体 |
| 364 | 코 | 鼻。洟。 | （身体）（現象） |
| 365 | 코끼리 | 象。 | 動物 |
| 366 | 콩 | 大豆。豆。 | 具体 |
| 367 | 택시 | タクシー。 | 具体　場所 |
| 368 | 토끼 | うさぎ。 | 動物 |
| 369 | 토요일 | 土曜日。 | 時間 |
| 370 | 톱 | のこぎり。 | 具体 |
| 371 | 틈 | すきま。暇。 | 抽象　場所 |
| 372 | 파도 | 波。 | （現象） |
| 373 | 팔 | 腕。 | （身体） |
| 374 | 편지 | 手紙。 | 具体 |
| 375 | 평화 | 平和。 | 性質 |
| 376 | 풀 | 草。 | 具体 |
| 377 | 피 | 血。 | （身体） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 378 | 필요 | 必要。 | 性質 |
| 379 | 하늘 | 空。天。 | 場所　抽象 |
| 380 | 하루 | 一日（の間）。 | 数量 |
| 381 | 학교 | 学校。 | 団体　場所 |
| 382 | 학생 | 学生。生徒。 | 人間 |
| 383 | 한국 | 韓国。 | 場所　団体 |
| 384 | 항구 | 港。 | 場所 |
| 385 | 해 | 陽（ヒ）。太陽。昼。 | 具体 |
| 386 | 해 | 年。…年. | 時間 |
| 387 | 행복 | 幸福。 | 性質 |
| 388 | 허리 | 腰。 | （身体） |
| 389 | 형 | 兄さん。 | （親族） |
| 390 | 형편 | 有様。状況。事情。都合。 | 抽象　事柄 |
| 391 | 호랑이 | 虎（とら）。 | 動物 |
| 392 | 활동 | 活動。 | 活動 |
| 393 | 후 | のち。あと。 | 時間 |
| 394 | 흙 | 土。 | 物質 |
| 395 | 힘 | 力。 | 抽象 |

（神田外語大学非常勤講師・170 東京都豊島区巣鴨3-9-11，B-41）

# The Classification of Nouns in Modern Korean

——Clarifying Korean Lexicology and Grammar——

NOMA Hideki

The aim of this paper is to discuss the lexicogrammatical classification of nouns in modern Korean.

Korean nouns are classified mainly by the following two conditions:

1) By the kind of accompanying case-endings and/or suffixes

2) By the kind of classifiers (名数詞) that are used

We consider the study of classification to be essential to establish the Korean lexicology, to clarify Korean grammar and to elucidate how a word can have its own meaning.